週刊 YEAR BOOK

1962
昭和37年

日録20世紀

5/13・20
平成9年5月13・20日発行
(毎週1回発行)第1巻第13号
¥560
講談社

植木等「無責任男」ブーム

マリリン・モンロー突然死の謎!
人口1000万人突破! 東京のパニック
戦後初の国産旅客機「YS11」が翔んだ

ケネディ兄弟の“愛人”マリリン・モンローはなぜ死んだのか?

就任早々のケネディ大統領は、キューバ問題で深刻な危機に直面する。
そして、8月5日、ケネディとの関係が噂されていたマリリン・モンローが突然の死をとげた。
アメリカン・ドリームを代表する「愛の女神」は、世界で最も愛された女優でもある。
彼女の死は35年たった今でも、さまざまに語られているが、一体何があったのか。

▼マリリン・モンローの死によって未完となった映画「女房は生きていた」のワンカット。彼女の映画にしては珍しいヌード・シーン。

© LAWRENCE SCHILLER　GTP Tokyo

はたして自殺か、他殺か 通報までの四時間の謎

一九六二年八月五日早朝。ロサンゼルス警察署西分署の電話が鳴り響いた。「女性が全裸で死んでいる」。夜勤の警部補は、驚いて現場に駆けつけた。夜が明け始めた頃、彼女の家の電話には世界からの問い合わせが殺到していた。

「モンローが死んだ? 本当なのですか」

マリリン・モンロー(三六)は八月五日の夜中零時頃に死亡していた。午前四時二五分に、彼女の死を警察に通報したのは精神分析医のラルフ・グリースン博士だった。駆けつけたジャック・クレイモンズ巡査部長はシーツにくるまれた裸のマリリン・モンローを見た。

うつ伏せになり、手と足はまっすぐに伸びている。死体を動かした形跡があった。彼はその場にいた医師に簡単な話を聞いている。死亡した彼女を発見したのは何時頃なのか。「夜中の一時頃だ」という答えがあった。では、通報するまでの四時間ほどは何をしていたのかと聞くと、何も答えない。答えを催促すると「二〇世紀フォックスに了解を求めていた」という返事が返ってきた。

●映画「七年目の浮気」から。地下鉄の通風口の上でスカートをおさえる有名なシーン。15回以上も撮りなおしたという。
SAM SHAW　オリオン・プレス

◎表紙　“無責任男”で大ブームを巻き起こした植木等。　渡辺音楽出版提供

ケネディ兄弟の"愛人"
マリリン・モンローはなぜ死んだのか?

モンローが死亡して三五年たつが、現在も他殺説が繰り返し唱えられている。一体何があったのか。他殺説の大きな流れは当時のジョン・F・ケネディ大統領（四五）と弟のロバート・ケネディ司法長官（三六）との関係に行きつく。二人とモンローは肉体関係があり、モンローの自宅はFBIおよびマフィアによって監視されていたことが確認されている。

噂は無数にある。彼女の赤い表紙の日記帳がなくなっている。モンローの電話の記録がすべて消えている。彼女は何者かによって直腸に薬を注入された……。

不幸な少女時代から「愛の女神」へ成長

ノーマ・ジーン・モーテンセンという名前がマリリン・モンローの本名である。母親グラディス・ベイカーは仕事場に訪ねて来るセールスマンと恋仲になりノーマを身ごもるが、男は行方不明。彼女は事実上、私生児として生まれた。さらに不幸なことに、母親は心を病み精神病院に入院。こうした環境で育った彼女は愛情に飢え、おどおどとした傷つきやすい心を持っていた。

彼女が二〇歳の時に大きな転機が訪れる。まだ女優の卵にしかすぎないのだが二〇世紀フォックスと契約をし、マリリン・モンローという芸名を名乗る。

二七歳の時に初めて「ナイアガラ」に主演して大ヒットとなり、モンロー・ウォークが一世を風靡する。ようやく彼女はスターの座をつかんだ。以後「紳士は金髪がお好き」「帰らざる河」とヒットが続いた。

しかしハリウッドはマリリン・モンローの味方ではなかった。スターはお金を稼ぐ商品であり、作られたイメージ（「セックス・シンボル」）を演じていればいい、という論理にモンローはたった一人で挑戦する。ニューヨークに移った彼女は「アクターズ・スタジオ」に入って演技の勉強を一からやりなおし、「お熱いのがお好き」はじめ数々の名作を生んだ。

「夜は何を着て寝ているの？」「シャネルの五番よ」と答える彼女は陽気で才気に富んでいた。貧しい私生児から世界で最も有名な女優へとのぼりつめた彼女は、八月の暑い夜、平凡なシーツにくるまれて死んでいた。

午前五時三〇分、モンローの遺体はピンクの毛布をかけられて、司法解剖のために市の遺体公示所に移送された。一〇時三〇分、トーマス・野口検死官補によって司法解剖が行われた。検死はまず拡大鏡で死体の隅々まで観察し、注射の跡、打撲による痣、精液、毛根などを探し、次には臓器を切り刻むという徹底したものである。その結果、死因は「睡眠薬のバルビツール剤の大量摂取によるものと思われる」という発表があった。

マリリン・モンローに関して詳細な研究と評論活動を行ってきた作家・劇作家の中田耕治氏は言う。

「彼女の死は事故死でしょう。当時『女房は生きていた』（未完）の撮影に入っていましたが、撮影を休んだという理由で解雇されています。それとケネディ兄弟との確執。精神的に最低の状態で、アルコールに加え、多量の精神安定剤や睡眠薬を常用するという毎日でした。薬を飲んでいるのを忘れて、さらに薬を飲むということもあったはずです。結局、過剰摂取だったのでしょうね」

▲1954年2月、2度目の夫、元ヤンキースのジョー・ディマジオとともに来日、記者会見するモンロー。 毎日新聞社

▲1962年5月20日、J・F・ケネディの誕生祝賀会で「ハッピー・バースデー」を歌う。 PPS

▼1962年8月5日朝、自宅で発見され、搬出されるモンローの遺体。 PPS

モンロー、愛の遍歴

▲3度目の夫、アーサー・ミラーと。 WWP

マリリン・モンローは恋多き女性だった。

彼女は正式には3回結婚している。16歳の時にジム・ドガティという幼なじみの青年と結婚し2年で離婚。それから10年後の1954年にニューヨーク・ヤンキースの強打者だったジョー・ディマジオと結婚する。しかし家庭的な女性を求めるディマジオとハリウッドの大スターであるモンローという二人の関係は、まもなく破綻し、離婚する。その後『セールスマンの死』などの作品で著名な劇作家アーサー・ミラーと1956年に結婚するが、1961年に彼とも離婚する。

マリリン・モンローは1960年頃からジョン・F・ケネディとつきあうが、ケネディが大統領となってからは、彼から避けられるようになり、弟のロバート・ケネディに接近する。こうしたことから、不自然な死の原因はケネディ兄弟が背景にあるのではないか、と噂される。

このほかにも、写真家、作曲家、20世紀フォックスのプロデューサー、また『マリリン・モンロー他殺の証明』を書いたロバート・スレイツァー、映画界のスターでは、マーロン・ブランド、イブ・モンタン、フランク・シナトラなども一時期モンローの恋人であった。

「こつこつやる奴はごくろうさん」植木等の〝無責任男〟大ブーム！

▲クレイジー・キャッツのメンバー。前列左から桜井センリ、谷啓、植木等、後列左から安田伸、ハナ肇（リーダー）、犬塚弘。　フジテレビ提供

●植木等。昭和2年、三重県生まれ。東洋大学卒業後、昭和32年「クレイジー」に参加。写真は映画「ニッポン無責任時代」より。
東宝提供

この年の夏、東宝映画「ニッポン無責任時代」が封切られた。「とかくこの世は無責任　こつこつやる奴はごくろうさん」と歌った主演の植木等は、高度成長を前に、人々の圧倒的な人気を呼び、「無責任男」は、映画にレコードに、一大ブームを巻き起こした。

本人の違和感をよそに「無責任男」が大ヒット

「たとえ一時代でも『無責任男』という名前で日本中に知られたのは僕だけ。しかしこれは、ありがたいことだなぁと思わなければならないんですかねぇ」

ハナ肇とクレイジー・キャッツのボーカル兼ギターだった植木等（当時三五）は当時を振り返って複雑な表情を見せる。

この年七月に封切られた「ニッポン無責任時代」は興行収入三億五〇〇〇万円、一二月公開の第二弾「ニッポン無責任野郎」では三億六〇〇〇万円を記録した。まだ映画館の入場料が一八〇円だった時代のことである。このヒットに気をよくした東宝は、翌年には植木単独主演の「日本一シリーズ」もスタートさせ、コンスタントに興行収入三億円を超える人気シリーズとして定着した。

ところが、当の植木は「嫌々やっていたと言うと語弊があるけれど……」と前置きしてこう言う。

「撮影中、監督に『お前は何か誤解してるぞ。この役は普通の人間じゃない、要するに常識人ではないんだよ』なんて言われると、辛いなー、俺は非常識人間なのか。『くそー』と時々怒鳴りたくなってね。『スーダラ節』だけなら、まぁ、

▲写真左から、バラエティー番組などを多く手がけた放送作家の塚田茂、「スーダラ節」を作詞した青島幸男（現・東京都知事）、「クレイジー」のリーダー、ハナ肇。

新しいタイプのコミックソングだし、軽い気持ちでやれた。だけど映画のキャラクターは実像と思われてしまう。事実、僕自身が日常生活でも無責任男をよそおわなければならなかった」

昭和二九年に結成（植木の加入は三二年）されたコミックバンド、ハナ肇とクレイジー・キャッツ（結成時はキューバン・キャッツ）は、当初、新宿のジャズ喫茶「ＡＣＢ（アシベ）」などで活躍。三四年の「おとなの漫画」（フジテレビ）に続き、三六年には「シャボン玉ホリデー」（日本テレビ）のレギュラー出演が始まると、植木をはじめ、ハナ肇、ジャズ界屈指のトロンボーン奏者でもあった谷啓などクレイジーの面々は、一躍テレビの人気者となった。

レコードでもデビュー曲「スーダラ節」が三〇万枚を超える大ヒットとなり、この年の大晦日（おおみそか）には映画の挿入歌「ハイそれまでヨ」で紅白歌合戦に初出場。以後、「これが男の生きる道」「ホンダラ行進曲」とホームラン級の連打が続く。青島幸男（現・東京都知事）が作詞、当時のジャズメンとしては珍しい東京芸大出身の萩原哲晶（はぎわらてつしょう）が悪のり気味に作・編曲というコンビだった。

演歌的情緒を突き抜けた「なんとかなるさ」の気分

「飲み屋では、上司や会社を愚痴（ぐち）ってばかり。そのくせ会社にぶら下がっている。そんなサラリーマンが、もし勝手気ままにふるまえたらどうなるか。映画でやってみたかったんですよ」

一連のシリーズをプロットから手がけた脚本家の田波靖男（たなみやすお）は、発想の原点をこう語る。こうして生まれた植木演じる主人公・平均（たいらひとし）は、爆発的な共感を得た。

東京経済大学の桜井哲夫教授（社会学）はブームの背景をこう解説する。

「一九五〇年代末になって、三〇年代前半生まれの『新しい世代』から、既存の価値観を転覆させようという動きが生まれます。たとえば、ゴダールやトリュフォー、そして日本では〝松竹ヌーベルバーグ〟の旗手・大島渚などもこの世代に属します。ブームの一方の立て役者、青島も同じ。彼は産業社会の禁欲倫理と、日本のじめじめした演歌的情緒を小気味よく壊してみせたのです」

「新しい世代」と名ざしされた大島渚は植木の映画を「日本の喜劇は、喜劇とはいえお涙頂戴だった。でもあの映画は、泣き笑いじゃなくて、本当に笑い飛ばしたところがミソだった」と言う。

そして桜井教授は、植木という「空前絶後のパーソナリティー」が、この演歌的情緒の否定を可能にしたと語る。

「あの突き抜けたような明るさは、日本の芸能人にはなかったもの。既存の価値が崩壊しても俺たちは生きていける、『なんとかなるさ』という廃墟の中の楽天的な気分に通じていた。人々の心をとらえたのはこれでしょう。受験戦争という言葉が生まれたのもこの頃だが、一九六〇年代にティーンエイジャーだった僕らにとって、植木は救いでしたよ」

植木が「見ろよ青い空白い雲　そのうちなんとかなるだろう」と歌う時、そこに人々は戦後の廃墟の上に広がった青空を見ていたのかもしれない。

女たちの肖像

サユリストが熱狂！吉永小百合が主演女優賞を獲得

稲葉真弓

昭和二〇年生まれの吉永小百合（よしながさゆり）は、戦後日本とともに歩んできた生粋（きっすい）の戦後派女優である。まだ人々が貧しかった頃、彼女のヒット曲「寒い朝」や「いつでも夢を」が、希望の象徴だったという人は少なくない。

その彼女が、浦山桐郎（うらやまきりお）監督の「キューポラのある街」で脚光をあびたのがこの年で、弱冠（じゃっかん）一七歳で三七年度ブルーリボン主演女優賞を獲得した。鋳物（いもの）の町、埼玉県川口市を舞台に、酒乱の父親を持った娘が明るく健気（けなげ）に生きる姿は、戦後日本の混沌（こんとん）とした世相をとらえて大当たり。同年旺文社が行った高校生の知名度テストでは長嶋茂雄、三橋美智也（みはしみちや）、池田勇人（はやと）、川端康成に続いて五位。〝サユリスト〟なる言葉が生まれたのもこの頃のことである。

もともと浦山は東京・山の手出身の彼女の起用をためらったという。「この映画は貧乏を描いたもの。貧乏について考えてほしい」と彼女に言い、それに対し吉永は「私も貧乏を知っています」と答えた。子ども時代の吉永家は、外務省の役人を辞めた父親の芳之が事業に失敗、生活に困窮していた。父親みずから日活に彼女を売りこみに行き、「まだ一二歳じゃないか」と断られたというエピソードも残っている。

彼女のデビューは早く、昭和三一年、ラジオドラマ「赤胴鈴之助（あかどうすずのすけ）」のオーディションに合格して芸能界入り。日活入社は駒場高校入学と同時だった。駅のトイレで、セーラー服を私服に着替えて撮影所に通い、二年半で三四本の映画に出演。日活の「女裕次郎」と異名をとるスーパースターとなったが、四〇年「芸能界にいると世間がわからなくなる」と早稲田大学第二文学部に入学。学業と女優業を両立させる頑張りで周囲を驚かせた。卒業後は映画界の斜陽からテレビ出演を余儀なくされるが、これが後に夫となる一五歳年上のフジテレビディレクター岡田太郎との出会いにつながり、四八年に結婚。世の〝サユリスト〟たちをがっかりさせたが、同時にこの結婚は両親の猛反対にあい、ついに親子の愛憎劇、確執（かくしつ）へと発展する悲劇も生んだ。

結婚後の彼女は、女囚（じょしゅう）などの汚れ役にも挑戦し、昭和六三年には出演一〇〇本目の映画「つる＜鶴＞」で成熟した女優の美しさを見せたほか、玉三郎と組んだ「外科室」「夢の女」など妖艶（ようえん）な作品で芸域を広げつつある。

▲映画「キューポラのある街」での吉永小百合と浜田光夫。

勝者・敗者

初めてメジャーをしのいだ三振奪取三五〇九個 金田正一、世界記録への執念

阿部珠樹

この年、セリーグの優勝争いは、阪神、大洋の二チームにしぼられ、巨人は大きく離れた三位に低迷していた。入団以来、三割を打ち続けてきた長嶋茂雄の不調が響いたのである。

その巨人と、万年下位の国鉄（現・ヤクルト）スワローズの最終戦。九月五日の後楽園球場は、閑古鳥（かんこどり）が鳴いていても不思議はなかった。しかし、この日の試合は、開始前から特別な緊張感に包まれていた。国鉄の先発投手、金田正一（かねだまさいち）（二九）が、奪三振の世界新記録まであとひとつと迫っていたのである。

入団以来、〝弱小〟国鉄のエースとして、巨人戦には人一倍の闘志を燃やす金田は、この前の試合でウォルター・ジョンソンの持つ世界記録三五〇八個に並んだ後、あえて三振をねらわず、巨人戦での新記録達成をもくろんでいた。あと一個、誰からどこで金田が三振を取るのか。試合前の雰囲気が、下位同士の対戦にしては熱気をおびていたのは、そのためだった。

試合が始まると、金田はいつもの強気をおさえ、慎重な投球を繰り広げた。しかし、新記録の生け贄（いけにえ）にされるのはごめんと、巨人の打者は早打ちに出る。一回簡単に三者凡退、二回もたちまち二死、まだ三振はない。打席には六番の坂崎一彦が入った。

金田はまず得意の大きなカーブでストライクを取る。二球目、打ち気に出た坂崎の打球はファウルに。そして三球目、快速球が低めに来た。坂崎のバットが空（くう）を切った。世界記録の瞬間である。

昭和二五年のシーズン途中、享栄商業から国鉄に入団し、一三年目にたどり着いた世界の最高峰。これは日本人がメジャーリーグの記録を初めてしのいだ快挙であった。

新人の頃から先輩を平気で「おっさん」呼ばわりし、徹底した個人主義から「金田天皇」などとも言われた金田だったが、夏でも毛糸の肩当てを離さないなど人一倍の節制が、この大記録を生んだのである。

日刊スポーツ

▲巨人を相手に奪三振の世界新記録を達成した国鉄の金田正一投手。

共同通信社

朝日新聞社

▼相次ぐ冬山の遭難(1月5日)警察庁が正月4日間で死者・行方不明31人、負傷32人の過去最悪と発表。写真は栃木県足尾山系を縦走中に遭難し、5日、凍死体で発見された二人。

▲ミルクティーン歌手大活躍(1月)前年、「こどもじゃないの」でデビュー、「第2のチエミ」と言われる弘田三枝子(写真)ら、歌謡界は15歳以下の少女歌手が次々に誕生。

▼「10万円カラーテレビ」事件で東洋電機の株主総会大荒れ(1月30日)製品の完成を偽って株価を上げたとして、20日に本社などが警察の捜査を受けたばかり。株主から経営陣批判が噴出した。

▲朝潮ついに引退(1月12日)不世出の逸材と言われ、豪快な取り口と男くさい容貌に人気があったが、昭和34年の横綱昇進後は持病の脊椎分離症が悪化、不振が続いていた。優勝5回。

朝日新聞社

読売新聞社

読売新聞社

▲異常乾燥で火災続発(1月31日)この日1日で、東京都内としては戦後2番目、61件の火災が発生。写真は放火のため36世帯が焼け出された池袋の火事現場。

昭和37年1月

1(月)●警察庁、大型車へのタコグラフ取り付けを進めるよう全国の警察本部に指示、と新聞に。
2(火)●猛吹雪の九重連山の星生山で遭難、六人死亡。
3(水)●箱根駅伝で中央大が戦後初の四連覇を達成。
4(木)●郵政省、年賀状の九七億を元日に配達と発表。
5(金)●初のインドネシア産原油二万トンが和歌山製油所に到着。北スマトラ油田開発協力の代償。
6(土)●名古屋市で三件の猟銃乱射事件。犯人は自首。
7(日)●誇大広告や不良商品に対し、消費者団体などが「悪い商品追放運動」推進、と新聞に。
8(月)●一年前より生活が苦しくなったとする人が三二％など、総理府が世論調査結果を発表。
9(火)●高崎市、全国初の予防接種全額市負担を決定。
10(水)●国際捕鯨オリンピックに参加の「第三五播州丸」、鯨肉九六〇トンを積み大阪に帰港。
11(木)●経企庁、三六年の卸売物価動向を発表。木材・木製品は前年比二五・八％上昇。
12(金)●大相撲の「大阪太郎」横綱朝潮が引退表明。
13(土)●厚生省、三六年の小児麻痺患者発生数は生ワクチンの投与で前年の半分以下に減少と発表。
●都内三ヵ所に初の大気汚染自動記録装置設置。
14(日)●小樽市沖で漁船が座礁(15日、一五人救出)。
15(月)●歌会始の入選歌が盗作の疑いで取り消しに。
16(火)●建設相、主要国道にガードレール設置と表明。
17(水)●公明政治連盟、基本要綱と政策要綱を発表。
18(木)●鳥島でアホウドリの成鳥三二羽を確認。
19(金)●養豚頭数は一年間で六割増と農林省発表。
20(土)●警視庁、「一〇万円カラーテレビ」で不当に株価を上げたと東洋電機を証取法違反で捜査。
21(日)●練馬区の西武池袋線踏切で、警手のミスから三人が電車にはねられ一人死亡、二人重傷。
22(月)●社会党定期大会閉幕。江田三郎が書記長三選。
23(火)●放射能対策本部、雨水中の放射能は減ったが牛乳中のストロンチウム90が増加、と報告。
24(水)●東京医科歯科大の柳沢文徳教授ら、合成洗剤の毒性を指摘する論文を発表。
25(木)●鉄道技術研、無人列車自動運転テストに成功。
26(金)●警察庁、ニセ千円札捜査態勢の一本化を決定。
27(土)●奄美大島で明治三四年以来の降雪を記録。
28(日)●全国自動車産業労働組合連合会、結成。
29(月)●全国共済農業協同組合連合会、農業界初の大型電子計算機ユニパックⅢの導入を発表。
30(火)●都、道路を使用するスポーツを禁止と通達。
31(水)●東急東横線に、ステンレス製電車が登場。

ニュース・ファイル 1962

フォト＋日録で再現する365日

高度経済成長まっさかり。初の国産旅客機YS11が飛び立ち、交通網の充実がはかられた。着々と進むインフラの整備と技術革新。映画・テレビ……、メディアも元気だった。そんな中、東京・三河島で死者一六〇人の大列車事故が発生、成長の歪みも目立ち始めた。

◀常磐線三河島駅で二重衝突事故(5月3日)死者160人、重軽傷者384人の惨事に。信号無視で砂利山に乗りあげた貨物列車に下り電車が衝突し脱線、そこへ上り電車が線路上を歩き始めた乗客をはねながら突っこんだ。

共同通信社

朝日新聞社

◀勝新太郎・中村玉緒結婚（3月7日）大映社長・永田雅一の媒酌で東京の帝国ホテルで挙式。人気俳優同士とあって、披露宴は芸能界の友人・知人が多数出席。写真はケーキカットする二人。

毎日新聞社

▲ロバート・ケネディ米司法長官来日（2月4日）アジア・ヨーロッパ視察旅行の第一歩。6日には早大の討論会に出席、怒号と野次に立ち往生する場面もあったが、最後まで笑顔で学生の質問に答えた。

WWP

◀アメリカ、初の有人宇宙飛行（2月20日）グレン中佐の乗る「フレンドシップ7号」が地球を3周して帰還。国家威信をかけた計画だった。写真は23日、宇宙船を視察するケネディ大統領（右）とグレン。

共同通信社

◀ツイスト、若者に大流行（2月）速めのリズムに合わせて、下半身を激しくひねる踊り。歌って踊れるツイスト歌手として、「24000回のキッス」がヒットした藤木孝に人気が集まった。

読売新聞社

▲「ローハイド」の3人来日（2月21日）西部劇ブームの引き金となった人気テレビ番組の主人公たちを一目見ようと、羽田空港は約7000人のファンで大混雑。写真は下からポール・ブリネガー、クリント・イーストウッド、エリック・フレミング。

昭和37年2月

1（木）●東京都の推計人口が一〇〇〇万人突破。
●最高裁、噛んだ犬の飼い主に責任認める判決。

2（金）●慈恵医大で膝に人工関節を埋める手術に成功。

3（土）●太平洋側で異常乾燥続く。都内ではこの年すでに一〇八五件の火災が発生し、過去最高。

4（日）●運輸省航空局、武器・弾薬輸送の疑いで羽田空港着のKLM機に初の立ち入り検査実施。
●鹿児島県川辺町で火災。約二三〇棟が全半焼。

5（月）●アマチュア天文家・関勉、新彗星を発見。

6（火）●ケネディ米司法長官、早大で講演と討論会。

7（水）●日本共産党、安部公房ら十数人の除名を発表。

8（木）●南極の昭和基地が閉鎖される（40年に再開）。
●米、在ベトナム軍事援助司令部を創設。

9（金）●農林省、前年一～九月の農家世帯員の減少は約五〇万人、十五万余人が挙家離村、と発表。

10（土）●初の対南米輸出トロリーバスが横浜で荷積み。

11（日）●欧州各国から日本の電機メーカーにラジオ組み立てなど合弁工場設立要請相次ぐと新聞に。

12（月）●海上保安庁の定点観測船「のじま」進水。

13（火）●野球規則委員会、ストライク範囲拡大、抗議権は監督のみなど一二年ぶり大幅改正を発表。

14（水）●日米の太平洋海底ケーブル建設契約が発効。

15（木）●臨時行政調査会が首相官邸で初会合を開く。

16（金）●東京都のインフルエンザによる学級閉鎖一〇九四校、死者は五二人に、と対策本部発表。

17（土）●東京都、初の全般的騒音調査結果を発表。最高値は上野広小路などの平均八六ホン。

18（日）●反日教組の全国教職員団体連合会発足。

19（月）●農林省、三六年の鶏卵産卵量が前年比三四・六㌫増で初めて一〇〇億個を突破と発表。

20（火）●警視庁、ひき逃げ捜査強化に「初動班」を設置。

21（水）●池田首相、韓国中央情報部部長の金鍾泌と会談。日韓の早期国交正常化などで合意。

22（木）●奥田奈良県知事、中学浪人を減らすため、県立高校二二校の緊急定員増加を指示。

23（金）●米誌「タイム」の表紙に松下幸之助が載る。

24（土）●憲法調査会、改憲の是非に関する初の公聴会。

25（日）●東海道本線鷲津駅で貨物列車が脱線転覆。濃硝酸が浜名湖に流入し、養殖ノリに被害。

26（月）●東京地裁、嶋中事件（36年2月）被告に、少年としては有期刑最高の懲役一五年の判決。

27（火）●日本電気、国産初の大型電子計算機NEAC2206を発表。

28（水）●最高裁、所得税の源泉徴収は合憲と判示。

朝日新聞社

▲卒業前にお化粧の講習（3月）資生堂の講師と助手が全国を巡回し、髪や肌の手入れ、メーキャップ、ヘアスタイルなど美容全般にわたる講義と実演を行った。昭和24年から実施、毎年恒例となっていた行事で、写真はこの年、東京都内の高校で行われた時のもの。

毎日新聞社

▲西ドイツへ行く炭鉱労働者（3月3日）政府が離職者対策としてルールの炭鉱に再就職先を斡旋、70人がそれを受けて日航機で羽田空港を出発した。条件は独身者、就労期間は3年だった。

朝日新聞社

◀巨人の別所毅彦投手、引退（3月20日）310勝のプロ野球最多勝利記録を持つ別所の引退試合が行われ、別所は先発して8球を投げた。写真は翌21日、自宅で。

PPS

◀アルジェリア独立へ（3月18日）民族解放戦線（FLN）が主導する臨時政府がフランスとの停戦協定に調印、独立戦争に終止符を打った。7月3日正式に独立。132年間におよぶ植民地支配から解放された。

共同通信社

▶有料道路「箱根新道」が開通（3月30日）箱根山を最短距離の13.85キロで越えることに成功。東京と大阪を結ぶ国道1号線の最大の難所が解消した。総工費21億円、2車線、幅約7.5メートル。

昭和37年3月

1（木）●テレビ受信契約数が一〇〇〇万件を突破。
●大正製薬、リポビタンD（一五〇円）を発売。

2（金）●池田首相、米大統領に核実験停止を要請。

3（土）●農林省、ハムなどのJAS規格を発表。

4（日）●東京―鹿児島間の電話が手動式即時通話に。

5（月）●東レ・資生堂・不二家・東芝、「シャーベット・トーン」の共通語で提携、広告を掲載。

6（火）●映画産業団体連合会など、減税相当額の映画入場料金値下げを国税庁長官に回答。

7（水）●群馬県吾妻町で無免許・酒酔い運転の消防車が渓谷に転落。六人死亡、一〇人が重軽傷。

8（木）●厚生省、三五年の国民健康調査結果を発表。年平均二回の病気で、治療費は一二五一円。

9（金）●衆院本会議、沖縄施政権回復決議案を可決。

10（土）●一〇万語の『日露辞典』完成とモスクワ放送。

11（日）●全国に一一羽生存するトキの保護のため、佐渡島の山林三〇〇㌶を国有地化、と新聞に。

12（月）●鹿児島県医師会、県衛生部の県立鹿屋病院移転新築案に抗議し、学校医総辞退を決定。

13（火）●交通閣僚懇談会、交通切符制の採用を決定。

14（水）●日経連、高・大卒者採用状況を中間発表。造船業界では前年比四二㌫増、証券は一〇㌫減。

15（木）●母子世帯対象の児童扶養手当、支給開始。
●日光市で観光客から施設税徴収する条例成立。

16（金）●韓国の養蚕振興のため桑苗木二五〇万本輸出。

17（土）●東海道本線国府津駅付近に自衛隊機が墜落。

18（日）●アルジェリア民族解放戦争、停戦協定に調印。

19（月）●ケネディ米大統領、「沖縄は日本」と公式声明。
●東芝、癌治療用高性能ベータトロンを公開。

20（火）●東京地裁、娘を守るため酔った三人組を死傷させた父親の正当防衛を認めず懲役三年に。

21（水）●名鉄犬山遊園駅―動物園駅間に、日本初の旅客用モノレールが開通。

22（木）●衆院本会議で初の出欠点検。無断欠席一六人。

23（金）●都公安委、パチンコの景品に酒類などを禁止。

24（土）●民放各社労組が賃上げなどを要求しスト突入。

25（日）●八尾市志紀駅踏切で衝突事故。二八人重軽傷。

26（月）●公労協九組合、労働委員会に仲裁申請と表明。

27（火）●住宅金融公庫、プレハブ住宅への融資を決定。

28（水）●長野県の野尻湖で、市民も加わり発掘調査開始。第一次調査でナウマンゾウの骨など発見。

29（木）●分裂していた浄土宗派と浄土宗本派が合併。

30（金）●箱根越えのバイパス、「箱根新道」が開通。

31（土）●義務教育の教科書を無償化する法律、公布。

読売新聞社

▲フランク・シナトラ来日。東京で3日間の慈善公演(4月18日)世界10ヵ国での孤児救済慈善公演の一環。出演料1000万円は67ヵ所の施設に寄付した。写真は21日、日比谷野外音楽堂での公演。

熊切圭介

▲イブ・モンタン来日(4月25日)5月1日から22日まで東京・名古屋・大阪などで公演、「セ・シ・ボン」「枯葉」「パリの空の下」などシャンソンの名曲を、表情豊かな声で精力的に歌いまくった。

報知新聞社

◀山本富士子、結婚(4月25日)16歳年上の作曲家・古屋丈晴氏と東京・赤坂のホテル・ニュージャパンで挙式。「日本一の美人」の文金高島田を写そうと、100人近いカメラマンが押しかけた。

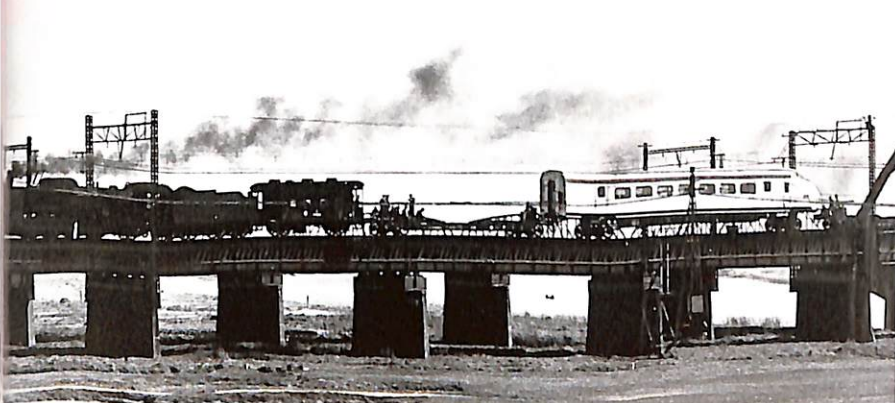
共同通信社

◀海老蔵、11代目市川団十郎襲名(4月1日)60年ぶりの名跡復活となり、披露公演が行われた東京の歌舞伎座は「海老さま」の一世一代の晴れ姿を見ようと満席。写真は口上を述べる新団十郎。

沖縄タイムス

▶祖国復帰へ「一仙(1セント)」カンパ運動(4月23日)沖縄の革新系団体を中心とする祖国復帰協議会が、対日講和条約発効の「屈辱の日」4月28日に代表団を本土へ送ろうと始めた。

毎日新聞社

◀試運転に向かう新幹線用車両(4月25日)できあがった車両2台が埼玉県川口市の日本車輌蕨工場に運ばれ、十河総裁や報道陣の見守る中、500メートルほどのレールの上を走った。

昭和37年4月

1(日)●工業高専、国・公・私立計一九校で発足。
2(月)●天橋立など九ヵ所にユースホステル建設決定。
3(火)●警視庁、俳優のスカウトと詐称し少年少女四〇人から七〇〇万円をだまし取った男を逮捕。
4(水)●東大放射線教室、熱中性子での癌治療法発表。●マンションなどの区分所有権を設定する「建物の区分所有等に関する法律」公布。
5(木)●東京で、全国老人クラブ連合会結成大会開催。
6(金)●政府、米核実験危険水域で操業する漁船員への健康診断実施など放射能対策を了承。
7(土)●江戸中期の陶工・尾形乾山の「佐野乾山」の発見者が文化財保護委に真贋の科学調査請願。
8(日)●吉永小百合主演「キューポラのある街」封切。
9(月)●東京ガス、三六〇〇キロカロリーから五〇〇〇キロカロリーへの熱量変更に備え、各家庭のガス器具調整を開始。
10(火)●保健体育審、給食に国産米をと文相に答申。
11(水)●東京で第一回日本宗教者平和会議開催。
12(木)●ドミニカ大使、技術移民を歓迎との意向表明。
13(金)●藤山経企庁長官、池田内閣の経済政策を批判。
14(土)●日本婦人会議結成(松岡洋子、田中寿美子ら)。
15(日)●皐月賞、馬手・厩務員労組のストで中止。●「少年サンデー」、赤塚不二夫のギャグマンガ「おそ松くん」を連載開始。
16(月)●警視庁、千代田区内の喫茶店に対し、モーニングサービスにタバコを出さないよう警告。
17(火)●労働省、長距離トラックなどの労務管理指針を通達。運転時間は一日一〇時間以内など。
18(水)●宝塚歌劇団音楽家労組、初の演奏中止スト。●勝新太郎主演「座頭市シリーズ」第一作封切。
19(木)●東京地検、千葉検察審査会事務局長らを千葉工大横領事件の審査にからむ収賄容疑で起訴。
20(金)●日本アート・シアター・ギルド(ATG)発足。
21(土)●一一歳のバイオリニスト・佐藤陽子、モスクワ音楽院大ホールで演奏会を開く。
22(日)●東京・荒川区などで連続五件の放火が発生。
23(月)●海員組合、週四八時間制を要求し停船スト。
24(火)●総評などが高校全員入学問題全国協議会結成。
25(水)●米、クリスマス島周辺で大気圏内核実験強行。
26(木)●全日本労働総同盟組合会議(同盟会議)結成。
27(金)●京都府加茂町と瀬戸市で、テレビのプロレス実況中継を観戦中の老人がショック死。
28(土)●通産省、綿紡不況対策で操短率を戦後最高に。
29(日)●倉敷天文台主事の本田実、新彗星を発見。
30(月)●宮城県北部でM六・五の地震。三人死亡。

証言・あの日この日

入江相政(56)

5月2日(水)〈原稿を書く。朝から御出版記念会のことで色々ごたごたする。皇后さまのお絵をならべたり竹の印を捺したり。平凡の西谷君来。原稿9枚頼まれる。あじくりげからも頼まれる。予の本はなかなかよく売れるらしく、大阪の方も予想以上の売れ行きで……〉(『入江相政日記』)

御出版記念会というのは、昭和天皇がこの年4月に植物学者とともに著した『那須の植物』の出版記念会のこと。同じ頃、入江侍従が刊行した随筆集『天皇さまの還暦』も評判はなかなかで、親米派のジャーナリスト・坂西志保は、翻訳して海外に紹介したいと申し出る。入江氏のもとには原稿依頼が相次ぎ、随筆家兼タレントとして多くの人々に親しまれていく。たとえばあるパーティーに出席すると、親子連れから〈『侍従さん』と頼まれて子供と写真にとられる〉ことになる。 (坪内祐三)

毎日新聞社

▲国立がんセンター開設(5月23日)広い視野に立った研究を可能にするため、厚生省付属機関として東京の築地に設立。この日から診察を始めた。最新式治療設備を備え、ベッド数200。研究情報提供なども行う。

共同通信社

▶三島由紀夫、釈明(5月21日)著書『宴のあと』がプライバシー侵害として、元外相・有田八郎に訴えられた民事訴訟で、「事前に了解を得た」などと述べた。昭和41年に和解が成立。写真は東京地裁に入る三島。

共同通信社

▲若乃花引退(5月1日)「土俵の鬼」と、その強さを称えられた大横綱もついに体力の限界を悟った。栃錦とともに栃若時代を築いたが、柏鵬時代の到来に譲ったかっこう。優勝10回。

毎日新聞社

▶河野農相、日ソ漁業交渉に出発(5月2日)8日、イシコフ漁業部長とモスクワで最終会談。9日には漁業規制区域、漁獲高についての交換文書に正式に調印。同交渉はこの頃の農相の重要な任務のひとつだった。

▼ガガーリン少佐、日本訪問(5月21日)人類初の宇宙飛行士が夫人とともに、日ソ親善のため来日。29日まで滞在し、京都・札幌などを見学した。写真は羽田から宿舎の帝国ホテルまでのパレードの様子。

毎日新聞社

昭和37年5月

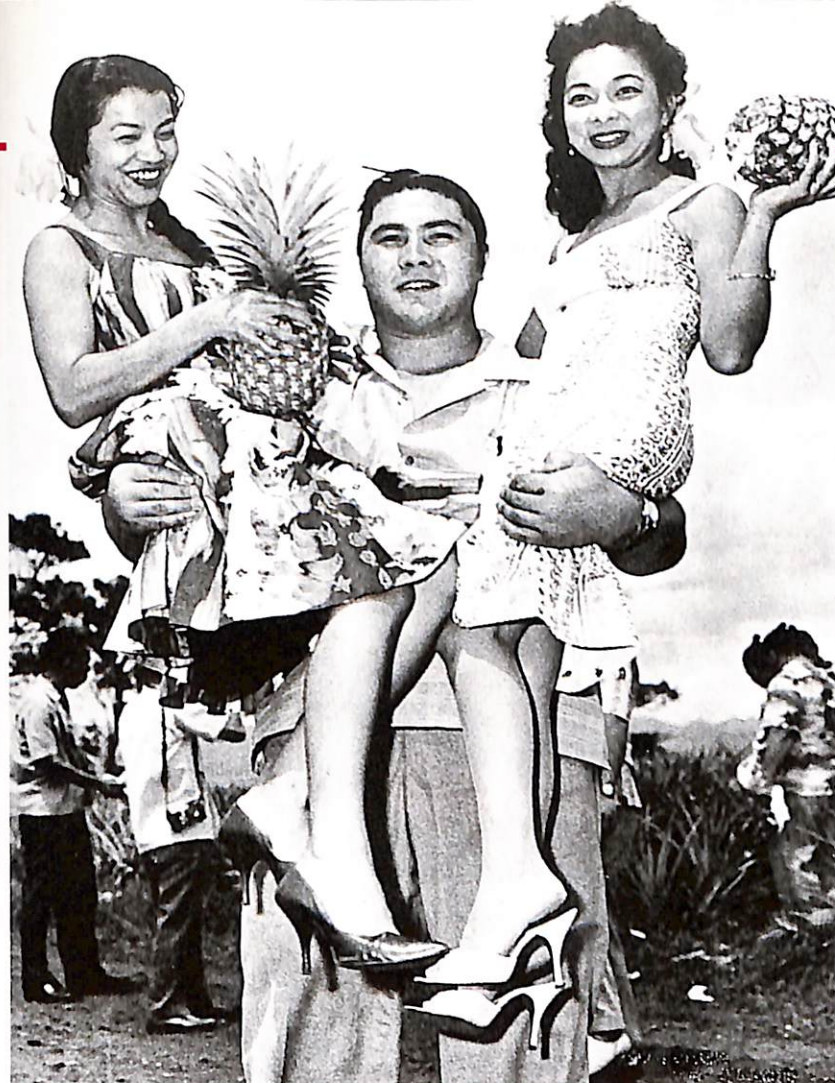
1(火)●阪神高速道路公団、発足。
2(水)●運輸省、ホテル・旅館にチップ禁止を要望。
3(木)●常磐線三河島駅で列車事故。一六〇人が死亡。
4(金)●家庭用品品質表示法公布。衣類の材質表示などを義務づける。●TBS系で、「ベン・ケーシー」放映開始。
5(土)●横須賀市で米兵が職質警官の銃を奪い射殺。
6(日)●TBS系で、「てなもんや三度笠」放映開始。藤田まこと・白木みのるが出演。
7(月)●渇水の東京で、給水を一日一一時間に制限。
8(火)●東京で国連人権セミナー「婦人の地位」をテーマに開催。アジアから二〇ヵ国が参加。
9(水)●東京で「噴火予知」テーマに国際火山学会議。
10(木)●地域格差是正へ「新産業都市建設促進法」公布。●林野庁、イヌワシ生息林の伐採計画を変更。
11(金)●全学連反主流派四十余人が自民党総裁室占拠。
12(土)●プレスリー主演「ブルー・ハワイ」封切。
13(日)●李ライン内操業の日本漁船三隻が相次ぎ拿捕。
14(月)●米軍の北・東富士演習場、条件つき返還合意。●東芝、天然結晶と同じ人工ダイヤ合成と発表。
15(火)●「不当景品類及び不当表示防止法」公布。
16(水)●日本テレビの「老人と鷹」がカンヌ映画祭大賞。●米高等弁務官、船舶国籍明示のため日の丸掲揚を要請していた琉球立法院に不許可と回答。
17(木)●大日本製薬、サリドマイド系薬剤の出荷停止(24日、厚生省は「企業の自主的措置」と通達)。
18(金)●外務省、在日米軍のラオス紛争介入に「遺憾」。
19(土)●最高裁、八海事件(26年1月)再上告審で原判決を破棄し、三たび広島高裁に差し戻す。
20(日)●全国各地で日本体操祭。一四〇万人が参加。
21(月)●ソ連の宇宙飛行士ガガーリン夫妻が来日。
22(火)●農地被買収者問題調査会、旧地主救済を答申。
23(水)●東京・築地の国立がんセンターが診察を開始。
24(木)●日清食品の「味付乾麺の製法」と「即席ラーメン製造法」に対し特許が承認される。
25(金)●都港湾審、東京湾二二〇〇ヘクタール造成などを答申。
26(土)●東海銀行など三社が中央信託銀行を設立。
27(日)●鉄道利用はソ連一位、日本二位と国連統計。
28(月)●社会党、社会主義インター「オスロ宣言」は中立主義を評価せず再軍備を肯定と採択棄権。
29(火)●総評、「新週刊」を赤字のため一年で廃刊に。
30(水)●高知県窪川町の中学校で校長の部落差別発言から生徒二九人が同盟休校(~8月27日)。
31(木)●北大登山隊、チャムラン(七三一九メートル)初登頂。

共同通信社

▲**八幡市の採石場で崩落事故（6月28日）**高さ50メートル、幅150メートルにわたり、重さ6万トンの岩石が突然崩れ落ち、近くで働いていた作業員など9人が死亡、11人が負傷した。

▶**北海道の十勝岳爆発（6月29日）**深夜11時すぎに突然噴火、火口近くにいた硫黄採掘作業員4人が死亡した。噴煙は高さ1万メートルにも達し、火山灰が各地に被害をもたらした。

◀**大相撲ハワイ場所、大鵬が優勝（6月4日）**前月29日に日本を出発、1日から4日まで行った興行で4日間全勝で優勝。写真は1日、パイナップル畑で現地女性二人を軽々と抱き上げる大鵬。

▼**北陸トンネル開通（6月10日）**難所だった敦賀―今庄間を直線で結ぶ。長さ1万3869メートルは当時の国内最長。同時に福井駅までの複線電化も完成した。写真は敦賀駅近くの祝賀列車。

読売新聞社

読売新聞社

▼**ラオスに第2次連合政権誕生（6月23日）**アメリカの支援を受けた右派と、中立派、左派の3派が合意に達し、内戦に終止符を打った。写真は握手する3派代表。中央が首相に就任した中立派のプーマ。

共同通信社

毎日新聞社

昭和37年6月

1（金）●米民政府、沖縄から本土への渡航を一部緩和。
●青空駐車を禁止する「自動車の保管場所の確保等に関する法律」公布。

2（土）●ソ連、歯舞・色丹で日本船操業認めずと表明。

3（日）●浜名湖でロープウエー宙吊り事故。乗客脱出。

4（月）●建設省建築研究所、プレハブ住宅試作に成功。

5（火）●俳優座・民芸など一〇劇団、土方与志没後三周年でゴーリキー「その前夜」を合同公演。

6（水）●石川県議会に全国初の女性副議長が誕生。

7（木）●台湾政府、民間テレビの日本製番組放映禁止。

8（金）●電源開発奥只見発電所（三六万㌔）の完工式。

9（土）●国鉄の列車給仕代表がノーチップ制を決議。

10（日）●北陸本線に日本最長の北陸トンネル開通。

11（月）●科技庁、合成洗剤毒性試験費の支出を決定。

12（火）●小坂外相、ライシャワー米大使と沖縄援助に関する第一回会談。政府調査団派遣で合意。

13（水）●夏目漱石旧居跡の都旧跡指定が解除される。

14（木）●国鉄監査委員会、三河島事故は「職員の精神のゆるみと訓練不足が原因」と発表。
●福岡市動物園で日本初のチンパンジー出産。

15（金）●熊本地裁、上官を殴った女性自衛官を精神病院に監禁した事件で、国に賠償支払いを命令。

16（土）●第一〇回パラリンピックに日本初参加を決定。

17（日）●福島県日和田町で、ダンプカーが捨てた高温の鉱石かすの下敷きになり中学生二人が焼死。
●技能労働者は一二五万人不足、と労働省発表。

18（月）●新潟各地で落雷。農作業の女性など四人死亡。

19（火）●大学教授らが「大学の自治を守る会」結成。
●キリシタン使節三百五十年記念としてローマ法王に招かれた中学生二人が羽田を出発。

20（水）●中教審、大学の管理運営に関する答申案作成。

21（木）●司馬遼太郎、「竜馬がゆく」を産経新聞に連載開始（～41年5月）。

22（金）●初の産業巡航見本市専用船「さくら丸」進水。

23（土）●東京・山谷の詩人らが機関誌「クラルテ」創刊。

24（日）●八幡製鐵労組、職務給制度是正闘争を終結。

25（月）●通産省、鉄鋼不況対策決定。減産や特融措置。

26（火）●米民政府、「子どもを小児麻痺から守る会」が沖縄に送ったソ連製治療剤の輸入を拒否。

27（水）●石油資源開発会社、秋田県土崎沖の海底油田で日産一五〇㌔の油層開発に成功と発表。

28（木）●自社株を社員に持たせる傾向強まると新聞に。

29（金）●大雪山国立公園の十勝岳で大正火口が爆発。

30（土）●第一回青少年音楽祭開催。二千人余が出演。

20世紀博物館 めがねの博物館

“魔術的道具”にほどこされた洒落っ気の数々

東京・渋谷区

桑原茂夫

平野美津子

▲19世紀ヨーロッパ（フランスのオヨナックス地方）の眼鏡工場の復元模型。眼鏡が細かい工程を経て作られるものであることが、一目でわかるようになっている。

今でこそ、眼鏡は日用品であるかのように簡単に手に入るが、よく考えてみると、ぼやっとしか見えないものをハッキリ見せてくれる“魔術的道具”なのであって、それにふさわしい仕掛けもいろいろとほどこされているのである。

この博物館では、眼鏡の歴史的な流れを、現物を通して知ることができるが、それはまさにこの“魔術的道具”を現実のものにするアイディアのコレクションでもある。

眼鏡が今のような形になるまでには、ずいぶん紆余曲折があったのは言うまでもないが、それぞれに時代の風俗なども反映していて面白いものだ。

そもそも眼鏡のつるだって、耳に引っかけるのは、ひとつのタイプにすぎないのであって、まったくのつるなし、つまりレンズを囲ったフレームを手で持つものもあった（初期のもの）し、同じつるなしでも、一九世紀末にパリで発売されていた、鼻をパチンとはさむばね式のものもあった。

▲側頭部をはさみこむタイプの眼鏡。右端は、14世紀ベネチアで作られた、金属製のフレームを持つもの。

つるなしだが、フレームにホルダーがついていて、これを持って眼鏡にするタイプのものもあった。一八世紀なかば頃の「オープン・ロルニェット」という型で、上流階級のお洒落でもあったようだ。面白いのは、同じ型で、眼鏡の代わりにオペラグラスを支えているものもあって、眼鏡も双眼鏡も、同じように“魔術的道具”だったのだろう。

つるはつるでも、側頭部をはさみこむことでフレームを支える、長いつるもあった。これはこれで、途中で折り曲げてさらに安定を得るために、途中で折り曲げてさらにしっかり側頭部をおさえつけるようにしたものもある（一九世紀なかば頃）。

日本でも、まっすぐ伸びたつるの時代もあったが、日本髪やかつらをかぶる時に、これを髪に直接差しこんで使えるので便利だったようだ。

ところで「ロイド眼鏡」というと、誰もが一九二〇年代の映画俳優ハロルド・ロイドがかけた眼鏡に由来があると思うだろうが、実はフレームとつるにセルロイドを用いたところから生まれた略称であり、ハロルド・ロイドは自分の名にひっかけて、ロイド眼鏡をかけたというのが真相のようである。レンズなしの伊達眼鏡であったことも、その傍証になりそうだ。ちなみに、このロイド眼鏡に、装飾をほどこしてファッション性を強めたのが、一九五〇年代の“モンロー型”である。もちろんマリリン・モンローがかけたことからその名がついた。

とまあ、実にいろいろ眼鏡があるものだが、それもこれも、身につけて違和感がなく、しかもお洒落で、機能的という、矛盾だらけの課題を抱えた道具だからだろう。

この博物館の説明員である山川英雄さんは、別の仕事場を定年退職した後にここへ来たが、眼鏡を知るにつれ、その「奥の深さを感じる」と言う。それで山川さんは今、展示されている眼鏡の一個一個について、大きさや重量、材質、仕組みなど、細部にわたるデータを作成している。そこから何が見えてくるか、そしてこの博物館にどう反映されるか、楽しみである。

▲19世紀なかばにパリで流行した鼻眼鏡の数々。洒落た感じである。

◀一九世紀なかば頃のヨーロッパで用いられたはさみの形をした眼鏡。左右の間隔を自在に調節できた。ほとんど装飾品の趣。

●めがねの博物館
東京都渋谷区道玄坂二―二九―一八
アイリスメガネ渋谷店六・七階
渋谷駅下車、徒歩五分
☎〇三―三四九六―三三一五
開館時間＝一一時～一七時
休館日＝毎週月曜日

ベストセラー
『易入門』『手相術』などが不透明な時代の指針になった

この年は占いの本がよく売れた。経済成長の大きなうねりが、個人レベルでは、生活全般にわたって将来への見通しが立ちにくくなっていたのかもしれない。

『易入門』は、三〇〇〇年前の中国で生まれた『易経』による〝易〟占いの入門書であり、実践マニュアル本だった。

占い師の持つ筮竹の代わりに、どこにでもある硬貨を使って、簡単に自分を占えるというところに、この本の最大の特徴があった。六枚の硬貨を手の中で振ってから並べ、その表裏でできる六四通りの組み合わせを〝あたるも八卦あたらぬも八卦〟の〝卦〟としたのである。

この卓抜したアイディアに加えて、六四通りの〝卦〟のひとつひとつに解説をほどこしたばかりか、著者みずからが占ったという著名人の具体例を添えて、〝卦〟の信憑性を印象づけた。そのうえ、この占いは迷った時の指針なのだということと、どん底の時なら、次に大きないい波が来るのを予知する術なのだとして、読者を励ますことを忘れなかった。

一方、『手相術』の方は、実際の占い師ではなく手相研究者が著したというところに新鮮さがあった。手相を科学的に追求している本であることを明確にして、読者を引きつけたのである。

そして、河野一郎、本田宗一郎、江戸川乱歩、中村玉緒など各界の著名人の手相写真を載せて、その手相の生命線、頭脳線、感情線、運命線などのパターンを解明して見せたのである。

ところで占いと並行して、『愛と死のかたみ』のような、心の奥深くに触れる本にも大きな関心が寄せられた。これも、経済至上主義的な雰囲気が濃厚になってきた時代を象徴しているようだった。

●昭和37年のベストセラー

順位	書名
1位	『易入門』(黄小娥/光文社)
2位	『手相術』(浅野八郎/光文社)
3位	『愛と死のかたみ』(山口清人·山口久代/集英社)
4位	『徳川家康』(全19巻/山岡荘八/講談社)
5位	『算数に強くなる』(毎日新聞社編/毎日新聞社)
6位	『性生活の知恵』(謝国権/池田書店)
7位	『スタミナのつく本』(小池五郎/光文社)
8位	『教養人の手帖』(現代教養文庫編集部編/社会思想社)
9位	『浩宮さま』(佐藤久/番町書房)
10位	『風の視線』(松本清張/光文社)

全国出版協会出版科学研究所

▲黄小娥『易入門』(光文社、250円)

▲浅野八郎『手相術』(光文社、280円)

▲山口清人·久代『愛と死のかたみ』(集英社、370円)

スターと名場面
「切腹」「忍びの者」が描く権力に立ちむかった男たち

時代が経済成長を軸として急速に変貌しつつある時、時代の流れから取り残されたり、あるいは時代の流れに反発したりする人々をテーマにした映画が、数多く製作された。

浦山桐郎監督のデビュー作であり、吉永小百合の主演で話題を呼んだ「キューポラのある街」や、サラリーマン社会を痛烈に皮肉った、植木等主演の喜劇「ニッポン無責任時代」(古沢憲吾監督)は、同時代を舞台にした作品だったが、時代劇の方でも、小林正樹監督の「切腹」や山本薩夫監督の「忍びの者」が、時の権力やその権力のもとに形成されたモラルやルールに対して、敢然と立ちむかう男たちを、幻想性をおびたモノクロームの画面で描き出した。

「切腹」は〝武士らしさ〟というモラルにがんじがらめにされ、むごたらしい死をとげた男(石浜朗)と、〝武士の体面〟の実質を鋭く問う男(仲代達矢)を中心に展開されるシリアスドラマだったが、カンヌ映画祭で審査員特別賞を受賞するほど、外国でも評判を呼んだ。

なおこの年は話題作が多く、ほかにも次のような作品が上映された(かっこ内はおもな出演者)。

「椿三十郎」(三船敏郎、仲代達矢)/「誇り高き挑戦」(鶴田浩二、丹波哲郎)/「破戒」(市川雷蔵、藤村志保)/「座頭市物語」=シリーズ第一作(勝新太郎)/「憎いあンちくしょう」(石原裕次郎、浅丘ルリ子)/「秋刀魚の味」=小津安二郎の遺作(佐田啓二)/「私は二歳」(山本富士子)/「瞼の母」(中村錦之助)など。洋画では「怒りの葡萄」(ヘンリー・フォンダ)/「ハスラー」(ポール・ニューマン)/「太陽はひとりぼっち」(アラン・ドロン)など。

松竹提供

▲「切腹」の仲代達矢。宮島義勇のカメラが、重厚で美しい画面を作り上げた時代劇の傑作。

▼これまでのサラリーマンものとは違って皮肉たっぷりの痛快喜劇だった「ニッポン無責任時代」。

東宝提供

モノ語り'62
「当たり前田のクラッカー」「リポビタンD」などテレビCMで大ヒット商品続出!

◀ドリンク剤の先駆登場　今やドリンク剤の代表的存在となった大正製薬の「リポビタンD」(100ミリリットル入り150円)は、この年発売された。実はこの2年前、すでに〝リポビタン液〟というアンプル剤を売り出していたが〝もっと飲みやすく〟という消費者の要望が多く、それにこたえて、増量するとともに、味をととのえて薬臭さを薄め「リポビタンD」としたのである。さらに、販売戦略として、店頭への冷蔵ケースの導入や、王選手起用のテレビCMが、大ヒットにつながっていった。

◀味噌汁もインスタントに　山印信州醸造(現·山印醸造)が、具入りの粉末をお湯で溶くだけでできあがるインスタント味噌汁「やまじるしミソープ」(5袋入り50円)を前年に開発、評判になった。急速真空凍結乾燥法による製造法をいち早く採り入れ、えのきだけ、ねぎなどの具が入ったもので、従来の火力乾燥による携帯食用乾燥味噌と異なり、焦げ臭さのない風味のよさが売りものだった。

◀きゅうりもパッケージされた　インスタントラーメンなどの人気で、小袋を使ったパッケージ商品が次々と開発され売り出されたが、漬物にもついに登場した。東海漬物の「きゅうりのキューちゃん」(1袋35円)がその先駆的存在だった。イメージキャラクターに、当時の人気スター坂本九(九ちゃんの名で親しまれていた)を起用したのも効を奏して、大ヒットした。

▲新しい男性整髪料の時代　ライオン歯磨(現·ライオン)はアメリカのブリストル·マイヤーズ社と提携し、「バイタリス」(125cc入り250円など)を、日本市場で売り出した。〝テカテカ、ベタベタしない、油でない整髪料〟を前面に打ち出し、新しい男性整髪料時代の到来を感じさせた。スタート時はエリア限定販売だったが、翌年には全国販売され、定番商品となった。

▶当たり前田のクラッカー　クラッカーがまだ珍しかった時代に、前田製菓は、軽食にもなる素焼きタイプの「ランチクラッカー」(120グラム入り30円)を発売した。そのまま食べても、ジャムやチーズをのせてもオーケーという、新しい食生活を予感させるスナック菓子だった。テレビCMでも、当時の人気番組「てなもんや三度笠」で、主役の藤田まことが現物を見せ「当たり前田のクラッカー」とやって話題を呼んだ。

◀紅茶にもインスタントの波　コーヒーやラーメン、カレーなどのインスタント食品が次々に新しい市場を生み出していった時代に登場したのが、紅茶の「リプトンティーバッグ」だった。リプトン·ジャパンが、ふだん緑茶を飲んでいる日本人の好みにあうものをと、独自に開発した商品で、先行してブームを起こしていたアメリカと同じようにヒット商品となった。25個入り250円。

◀▶カミソリも「軽便」の時代　カミソリというと、支持本体に替え刃をつけて用いるのが一般的だったが、この頃から、使い捨てタイプの軽便カミソリが登場して人気を呼んだ。特にこの年三和刃物(現·貝印)から発売された「T型カミソリ」(1本5円)は、安価で使い勝手のよいカミソリとして、若者を中心によく売れ、ロングセラー商品となった。銭湯でのばら売りやスーパーでの販売が好調で、流通面でも新しいカミソリの登場を印象づけた。

人物クローズアップ

堀江謙一（二三）

「太平洋ひとりぼっち」の九四日！ 小型艇で世界初の単独横断に成功

五月一二日、堀江謙一（二三）はパスポートとビザを持たないまま、全長五・八メートル、幅二メートルの小型ヨット「マーメイド（人魚）」で兵庫県の西宮ヨットハーバーからアメリカに向けて出帆した。積載量を最小限におさえるため無電発信機やSOS用の発煙筒も搭載しない生存ギリギリの装備、所持金二〇〇〇円、そして一二〇日分の必需品を積みこんでの「日本脱出」だった。

航海中に五回の大シケに遭遇、また吐いた胃液に血がまじるほどの船酔い、孤独に耐えながらの九四日にわたる悪戦苦闘のすえ、八月一二日（日本時間一三日）サンフランシスコに到着、世界初の単独太平洋横断に成功した。

堀江は「ひとつひとつが感動の連続だった」と当時を振り返り、「関西大第一高校ヨット部に入ったことが冒険のきっかけ。ぼくは冒険をスポーツとしてやってるつもりなんです」と語る。

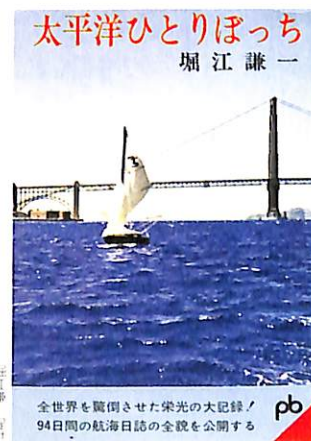
この快挙はアメリカ国民や在米日系人に大歓迎され、現地のマスコミは「英雄的行為」として報道。一ヵ月間の滞米期間を認める異例の措置がとられ、堀江はサンフランシスコとロサンゼルス両市から名誉市民の称号と鍵を贈られたほか、イタリアの「海の勇者賞」を受賞した。一方、日本では「人命軽視の暴挙」として報じられ、冒険に対する日米の評価の違いが浮き彫りとなった。

一一月、航海日誌は『太平洋ひとりぼっち』として出版され、翌三八年に菊池寛賞を受賞し話題を呼んだ。

堀江の冒険はこれで終わらず、一〇年後の昭和四七年、今度は世界一周に挑戦。しかしマストの破損で失敗し、マスコミからの非難をあびたが、その挫折を乗り越えて四九年五月四日、二七五日と一三時間一〇分の世界早まわり新記録で単独無寄港世界一周をなしとげた。

「ひとつの目標を立て、計画・準備・実行していくことが楽しいし、ワクワクするんです。成功とか失敗とかでなく、みんなが温かく見守っていく、そんな社会になってほしいと思うんです」（堀江）

五三～五七年に六万キロの縦まわり地球一周、六〇年ソーラーボートによる世界初の単独太平洋横断に成功。平成元年には三七年とは逆コースで一三六日の航海を行い、五年にはハワイ—沖縄間を足こぎボートで横断、さらに八年八月にはアルミ缶を再利用して作ったソーラーボートで世界初の単独太平洋無寄港横断に成功。

今も堀江は「太平洋の航海は北半球を赤道に平行して行くわけですが、夜は北極星やたくさんの星を見ながら進む。何年ぶりかで行くと、〝お前また来たのか〟と歓迎されているような感じなんです。だから、また航海を続けます」と語る。

▲8月12日午後6時30分（日本時間13日午前11時30分）、西宮のヨットハーバーを出航して94日目で、サンフランシスコに到着した堀江謙一。総費用は約100万円だった。

堀江謙一提供

▲「マーメイド」。全長5.8メートル、幅2メートルの小型ヨット。

太平洋ひとりぼっち
堀江謙一
全世界を驚倒させた栄光の大記録！
94日間の航海日誌の全貌を公開する
pb

▲『太平洋ひとりぼっち』文藝春秋。

まさに核戦争へ一触即発！米ソの危険な駆け引き「キューバ危機」の内幕

「キューバに核ミサイル基地ができている。間違いなくソ連製だ」

「黒いスパイ機」と呼ばれたU2型機が衝撃的な情報をホワイトハウスに持ちこんだのはこの年一〇月一六日だった。

前年一月に就任した四五歳の若きケネディ米大統領は、それから六日後の一〇月二二日、ミサイル基地の存在とキューバの海上封鎖を発表、あわせて陸海空三軍に臨戦態勢を命じた。米ソ二大超大国が核戦争に向かって、一触即発の危機に瀕したのである。

一九五九年、フィデル・カストロ、チェ・ゲバラらによって樹立されたキューバ革命政権は、カリブ海という地理的条件もあり、ただでさえ「米国の喉元にささった棘」であった。そのうえに中距離核弾道弾基地が作られていたのである。米国のショックははかりしれないほど大きかった。カリブ海をはさんで双方合わせて五〇〇万人を超える兵力が対峙した。

だが、その後判明した事実では、この危機は当時考えられていたよりも数段上回る危険性をはらんでいたのである。

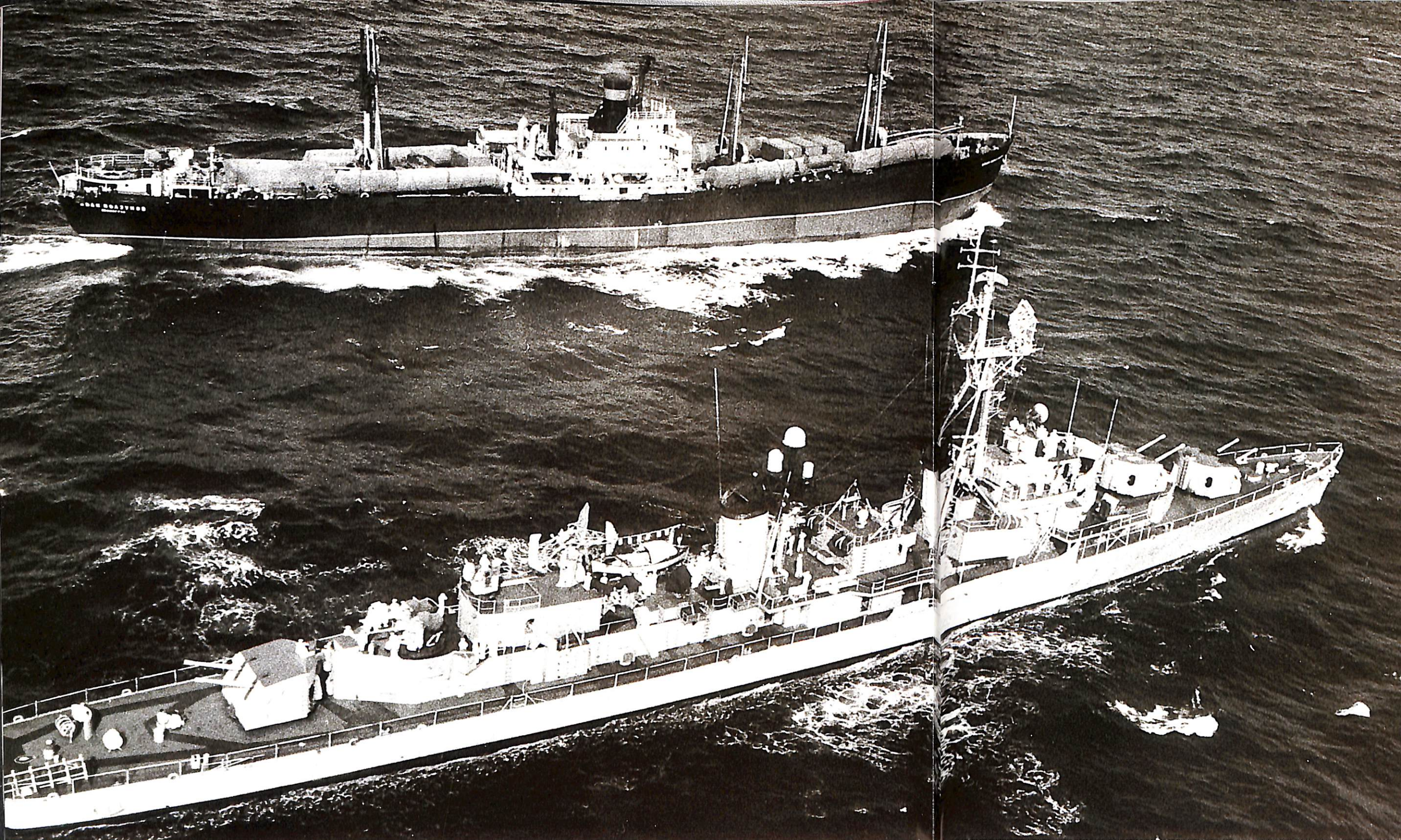
「双方がお互いの手のうちを知らずに駆け引きをしていました。当時、キューバには発見されたミサイルのほかに、より射程の短い戦術核ミサイル『ルナ』があることは米軍に知られていなかった。しかも『ルナ』は、米軍のキューバ侵攻時には現場指揮官の判断で使ってもいいことになっていたのです」（筑波女子大学・木村卓司助教授）

CIAは当時キューバに核弾頭はないと判断していた。しかしキューバ国防省の資料は、現実には、広島型原爆二五〇〇発分に相当する核弾頭が持ちこまれていたと記録している。

一〇月二七日にキューバ上空でU2機が撃墜され、危機はピークを迎えた。米政府は交渉の一方で、キューバへの大規模な空爆を計画していた。結果的に、米軍のキューバ侵攻近しの報を受けたフルシチョフソ連首相が翌二八日、ミサイル撤去に同意し、危機は一応、収束する。しかし米軍の侵攻があれば、カリブ海にキノコ雲が立ちのぼり、世界が核戦争になだれこんだ可能性が高かったのだ。

「ベルリンや台湾海峡で米国は威圧によって、相手を屈服させてきた。キューバでも軍の警戒水準をDEFCON・2（交戦状態の一段階前）とし、核搭載爆撃機B52を空中待機させた。つまり自分の力を見せつけることで、フルシチョフの意志をくじいたのです。結果的にうまくいきましたが、これを成功と勘違いした米国はベトナムで同じ手法を使って泥沼にはまっていったのです」（青山学院大学・土山實男教授）

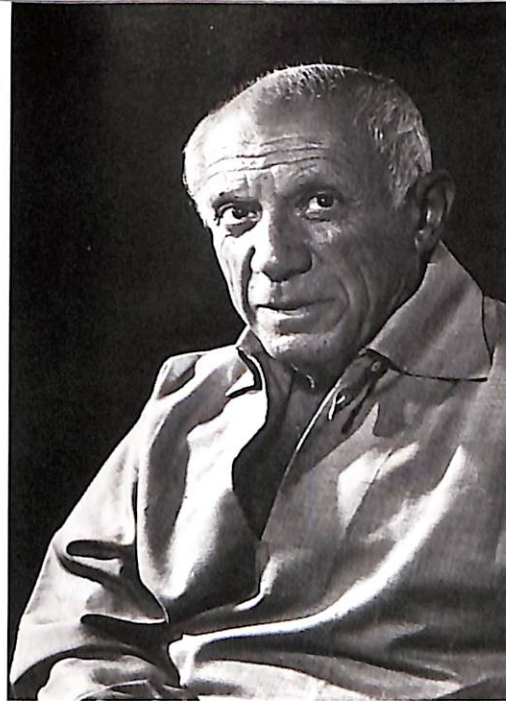
危機の最中に出された統合参謀本部の文書にはこうある。「太平洋艦隊司令長官は、統合参謀本部に以下を報じた。日本に核を持ちこむ許可が下りれば、太平洋軍の全面戦争への準備はすべて整う」

米ソ両国による危険なゲームは、日本にとっても対岸の火事ではなかったのだ。

▲ミサイルを積んで引き返すソ連の輸送船（上）と、これを監視するアメリカの駆逐艦。アメリカ海軍は、空母を含む機動部隊など数十隻の軍艦を出動させ、フロリダからプエルトリコまで、1000キロを超える封鎖線を作った。 カール・マイダンス（LIFE） PPS

▲テレビを通じ、キューバ海上封鎖を告げるケネディ米大統領（10月22日）。 WWP

美の出会い

世界初の一挙公開！ピカソの大作「ゲルニカ」連作六三点が上野に来た

◀パブロ・ピカソ。1881年生まれ。ブラックとともにキュビスムの創始者として知られる。

ゲルニカは、スペイン北部にあるバスク地方の小さな町である。一九三七年四月二六日、スペイン内乱の最中、反乱軍のフランコ将軍を支援するナチスのドイツ空軍機四三機が、三時間にわたりこの町を爆撃し、町の大半が破壊され多くの死傷者を出したのである。世界中を震撼させたこの惨劇は、二年後に起こる第二次世界大戦の序曲でもあった。

パリでこの不条理な悲劇を知ったスペイン生まれの画家パブロ・ピカソ（当時五五）は、五月一日に習作スケッチを開始、六月には二〇世紀絵画を代表する大作「ゲルニカ」を完成させたのである。

美術評論家の瀬木慎一氏は、戦火を避けてニューヨーク近代美術館に預けられていたピカソのこの傑作を、なんとか日本でも展示したいと、数年前から構想をあたためていた。

この年の春、南フランス・ムージャンで制作中のピカソのもとを訪れた瀬木氏がその意向を述べると、ピカソは快諾してくれた。その時の様子を氏は回想する。

「どんな人とも会わなくなった晩年の、制作一途のピカソに会うことができました。そのうえ、日本でゲルニカ展を開催したいという私の無理を承知の申し出を、いともあっさりと認めてくれたのです。

よろしい！『ゲルニカ』を日本へ送ろう。考えてみれば日本もそうだ。『ゲルニカ』と同じ体験をしたのだからな、と承諾してくれたのです。ピカソは筋の通ったことには、快くただちに応じる人でした」

こうして「ゲルニカ」は日本に来ることになり、昭和三七年一一月三日から一二月二三日まで、東京・上野の国立西洋美術館で「ピカソ・ゲルニカ展」が開かれた。初日は、午前九時三〇分の開館を待ちきれない人々が行列を作った。

会場には「ゲルニカ」の序章とされるフランコに抗議する版画「フランコの夢と嘘」をはじめ、五月一日の日付のあるスケッチなど「ゲルニカ」連作六三点が展示された。壁画の「ゲルニカ」は、ニューヨーク近代美術館の特別な部屋に固定されていて技術的に取りはずすことができないため、出品できなかったが、原寸大に引き伸ばした写真と、ほぼ同じ大きさで原画を忠実に再現したタピスリーが展示された。

連作六三点が一堂に展示公開されたのは、この日本での展覧会が初めてのことで、ピカソの怒り、悲しみ、哀惜の情は遺憾なく伝わってきた。また、彼が画面の上で創意工夫をつくした闘いの跡をたどることができ、現代を代表する画家の力を十分に見せるものだった。

オペラ歌手の大谷洌子さんは、この展覧会を待ちきれずに、初日に駆けつけた一人。この時の感動を次のように語っている。

「『ハンカチを持つ泣く顔』のように、こんなに強くうったえる作品の前に立ったのははじめてです。（中略）表情そのものにしても、ワァーッという露骨でない泣き方だけに、内面的には、それ以上の強さを通りこした恐ろしさを感じます」（「アサヒグラフ」一一月三〇日号）

会場のこの作品の前では、多くの人が立ち止まり、しばらく動けなかったそうである。「ゲルニカ」の悲しみと怒りをやきつけた画面に言葉はいらない。

入場者数は八万六九五九人だった。

▲「ゲルニカ」。1937年、パリ万国博覧会の壁画を依頼されていたピカソは、ゲルニカの悲報に接し、約2ヵ月で描き上げた。 プラド美術館提供

▲「ハンカチを持つ泣く顔」。ゲルニカの罪なき人々に加えられた残虐行為を、ピカソは生存者の悲しみとして描いた。「ゲルニカ」の完成後、1937年10月に描かれた作品。 プラド美術館提供

爆発的増加で人口1000万人突破！
交通地獄、ごみ・屎尿、住宅……
世界最大の都市、東京の〝パニック〟

▲朝のラッシュ時、国鉄（現・ＪＲ）新宿駅中央線ホームで上り快速電車に殺到するサラリーマンの群れ。昭和37年2月撮影。　渡部雄吉

東京が人口一〇〇〇万人を抱える世界最大のマンモス都市となった。所得倍増政策の華やかさと裏腹に、農村基盤が崩壊し、大量の離村者が都市に流入した結果だった。その結果、住宅不足、交通地獄、ごみ問題、大気汚染など都市問題が一気に露呈し、遷都論も浮上したのである。

敗戦時から一七年で六五〇万人の人口増

「都知事以下、一生懸命走ってますけど、ゴールが毎年三〇万人分、先へ先へと行っちゃう。いつまでたってもゴールに着かないというのが都政なんです」（「経済論壇」昭和三七年五月号）

当時の東京都副知事・鈴木俊一（後に都知事）のぼやきである。

東京都が人口一〇〇〇万人のマンモス都市となったのは、この年二月一日のこと。それ以前からロンドン、ニューヨークなどをしのぎ、世界一の都市だったが、その膨張ぶりはすさまじかった。敗戦時に三四九万人だった都民が、一〇年後の昭和三〇年に八〇〇万人、さらに七年で一〇〇〇万人へと、たった一七年のうちにプラス六五〇万人という、爆発的増加を見せたのだ。要するに、年々約三八万人がふえ、そのうち地方からの流入人口が七割近かった。三八万人といえば、現在の旭川市や長野市の人口に近い。道路、住宅、上下水道、どれも整備が追いつかずパニック状況が強まるばかりだった。

たとえば、当時の東京の道路率（全面積の中の道路の割合）は一〇%強。ワシントンの四三%、ニューヨークの三五%、

「現場」を歩く 北九州

保存が決まった現存最古の溶鉱炉「一九〇一」

山本徹美

◀昭和37年、改修された当時の八幡東田第一高炉。この年は戸畑製造所の第三高炉も建設された。　新日本製鐵提供

▲保存運動が実を結び、東田第一高炉は、敷地とともに北九州市に寄付された。

小倉駅から鹿児島本線に乗り、博多方面へ向かう。枝光駅をすぎると、右手には遊園地「スペースワールド」が現れ、スペースシャトル「ディスカバリー号」のレプリカが目に入る。その隣に古めかしい煙突と三連タンク（熱風炉）、鉄骨組みの工場らしき構造物が建っている。「八幡東田第一高炉」だ。タンクと建物からは赤茶の錆が滲み、垂れている。

明治三四年二月五日、国営の八幡製鉄所が初めて火入れをした溶鉱炉がこの高炉で、その後、一〇回の改修を重ね、昭和三七年八月二〇日、この姿にいたる。

新日本製鐵八幡製鉄所総務部の入佐純一広報担当掛長に解説してもらう。

「高炉の寿命はせいぜい一五年。そのつど改修、解体、大型化します。現存の高炉では東田第一が最古です」

当初、同高炉は高さ三〇メートル、内容積四九四立方メートルの規模だったが、昭和三七年には高さ七〇メートル、内容積八九二立方メートルに。三七年の改修時にはわが国初の高圧操業が導入され、燃費の軽減と生産性の向上が実現。

三七年当時、八幡製鉄所の従業員は四万三〇〇〇人もいた。が、やがて鉄冷えの時代を迎え合理化と省エネ化が求められる。現在の従業員数は七〇〇〇人。

同高炉は昭和四七年一月まで燃え続けた。吹き卸（稼働停止）後、高炉の解体を惜しむ声が高まり、有志によって東田溶鉱炉保存基成会が結成された。その動きに配慮した新日鐵は四九年、東田高炉記念広場を開設、モニュメントとして残す。

補修、復元に八億円

平成元年一〇月、スペースワールドの開業とからんで老朽化した高炉の危険性が指摘され、新日鐵内で解体が検討された。これに対し北九州市文化財保護審議会は、保存で意見が一致、新日鐵ならびに国に要望書を提出。日本産業技術史学会、産業考古学会、日本科学史学会なども、新日鐵、市長宛に保存の要望書を提出。市民の関心も高まった。

北九州市教育委員会事務局文化部の東博幸主幹が市民感情を代弁する。

「あの高炉には製造年を示す『１９０１』の看板がかかっていて、私たちは子どもの頃から〝一九〇一〟と呼び親しんでいた」

平成六年一一月二九日、新日鐵は北九州市との間に東田第一高炉保存の合意書を交わす。新日鐵は危険部分を撤去した後、敷地ともども市に寄付することにしたのである。

高炉と線路の間にある土手斜面の植えこみは「八幡東田２００１」と刈ってある。現在、総合開発計画が進行中で、完成するのは二〇〇一年（平成一三）。

高炉の補修、復元には約八億円の予算が見こまれている。未来都市の景観にふさわしい塗装がなされるそうだが、私はあの鉄錆に汚れた姿が好きだ。鉄作りに生きた男の汗が感じられるから。

爆発的増加で人口1000万人突破！交通地獄、ごみ・屎尿、住宅……世界最大の都市、東京の〝パニック〟

ロンドンの二三％には比べるべくもない。道路も駐車場もさしてふえないのに自動車は激増し、五年前の三〇万台から八〇万台になろうとしていた。当時の新聞には、「交通地獄」という言葉が躍った。深夜なら五分で走れる中央区江戸橋と港区新橋の間（三キロ弱）が、渋滞のため平均二〇分以上かかり、立体交差化や二階建て道路建設が急務と訴えられていた。「二階建て道路」、つまり首都高速の誕生は、この年の一二月のことだった。

ごみ処理も屎尿処理もてんやわんや。当時の下水道普及率は二割（面積比）そこそこで、一般家庭の水洗トイレ普及率は微々たるもの。都内には八四三台のバキュームカーが走り糞尿を汲み取っていた。そしてこれらの半分は、一二八隻の運搬船によって東京湾沖に海洋投棄されていた。ちなみに現在も年間一八万トンが投棄されている。

住宅不足も「深刻」をはるかに通り越した状態だった。前出・鈴木が座談会の中で語っている。

「東（龍太郎）知事の就任当時（昭和三四年）の住宅不足は三五万戸。しかし、今（三七年）も同数が不足している」（前掲誌）

公団住宅の応募倍率は、昭和三四年一一倍、三五年二〇倍、三六年四〇倍と、倍々ゲームが続いていた。都心に近い便利な場所なら一〇〇倍以上も珍しくなかった。三〇回、四〇回と落選を重ねる人もざらで、「落ち続けるのは信心がたりないせい」と姑に叱られたという声を紹介した雑誌もある。二DKで家賃七〇〇〇円前後（現在約一二万円）の公団住宅に人々は殺到し、「団地族」「カギっ子」という流行語が誕生した。

さらに、この冬には「スモッグ」が連日、話題になった。麹町で、一平方キロ当たり月に一〇〇グラムを超す煤塵が降ったという記録も残っている。

東京の〝爆発的〟過密化と同時進行した農村の過疎

過密都市・東京の爆発と同時進行していたのは、農村の過疎化だった。

この年二月九日の「朝日新聞」は、「昨年一月から九月に、農家世帯員が四九万七千人減、うち挙家離村は一五万三千人」と伝えた。

池田首相は、所得倍増計画と抱き合わせに、「農村人口を三分の一にする」と言ったが、産業の重化学工業化は、農村から都市への人口の急速な流出と、「村落共同体」の解体をもたらしたのである。

当時の歌謡曲には東京から故郷を、ふるさとから都会を想う曲が作られ、口ずさまれた。代表的なものが「別れの一本杉」であり「僕は泣いちっち」である。

以来、三〇年余り。東京が抱えた病根は今も変わらない。そして、一極集中の過密都市「トーキョー」の根本的解決には遷都以外にない、とも言われる。

〝遷都論者〟で、通産省情報管理課長の八幡和郎氏が言う。

「東京は本来、地勢的に首都として不適格なんです。それはおいても、戦後の行政は、いずれも東京を長期的観点から考えた方策を打ち出せず、小手先のマイナーチェンジに終始してきた。昭和三〇年の首都移転論も、何を追い出すか、という議論にとどまった。一〇〇〇万人突破という事態に直面して、いわゆるオリンピック改造で、多少首都の収容能力をふやし、大学や工場を移転させたものの、それでまた政府も一息ついてしまった」

関東大震災、戦災、そして一九六〇年代と遷都の期をそのつど逃してきた東京に、再生のチャンスは訪れるのだろうか。

▲マイカー時代が始まるとともに交通事故も増加した。交通事故による死者は昭和30年の6379人から40年の1万2484人と、毎年増加の一途をたどる。写真は東京・内堀通りの皇居前付近。歩行者は一団となって横断する。　富山治夫

▼この頃、公団住宅は人々の人気を集め、入居のための倍率も高かった。写真は東京・新宿の戸山アパート。　共同通信社

日本の市部と郡部の人口推移

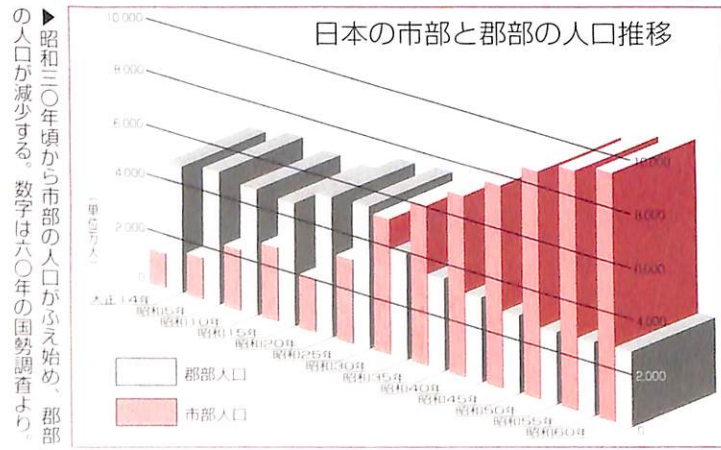
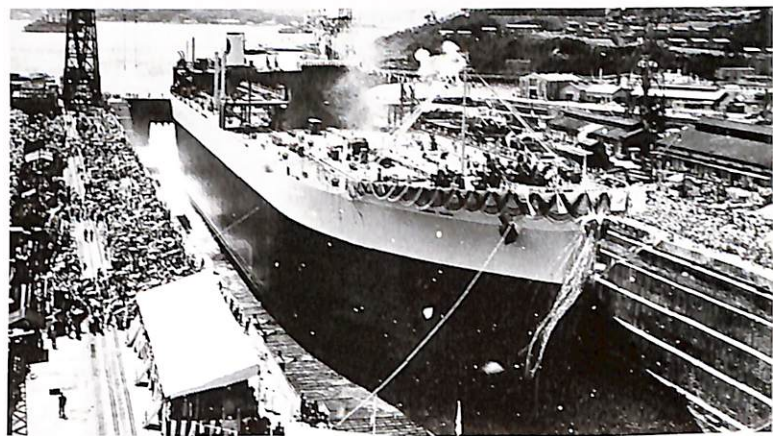
（単位万人）

郡部人口
市部人口

大正14年　昭和5年　昭和10年　昭和15年　昭和20年　昭和25年　昭和30年　昭和35年　昭和40年　昭和45年　昭和50年　昭和55年　昭和60年

▶昭和三〇年頃から市部の人口がふえ始め、郡部の人口が減少する。数字は六〇年の国勢調査より。

フォト＋日録で再現する365日

▲竜巻で小学校倒壊(7月2日)巻きこまれた茨城県牛堀町の八代小学校木造平屋建て校舎1棟が崩壊、授業中だった6年生79人と先生二人が下敷きになり、児童二人が死亡、27人が重軽傷を負った。

毎日新聞社

▲世界一のマンモスタンカー、「日章丸」進水(7月10日)佐世保重工佐世保造船所で建造。全長291メートル、13万2334重量トンで、クウェート—徳山間を約16日で航海する。船主は出光興産。

▼「フレンドシップ7号」、日本公開(7月25日)東京・日本橋の高島屋に展示された。ジョン・グレン中佐を乗せ、アメリカ初の有人宇宙飛行を達成した宇宙船を見ようと、初日だけで12万人が会場を訪れた。

共同通信社

朝日新聞社

▲タレント議員第1号(7月1日)NHKテレビ「私の秘密」で人気の藤原あきが、第6回参議院議員選挙全国区でトップ当選。初の100万票突破をはたした。

▼盗まれた「少女」帰る(7月2日)経企庁長官・藤山愛一郎所蔵のルノアールの絵で、川崎市のデパートの美術展に出品して盗難。東京・月島でトラックの荷台から発見され、この日警察に届けられた。

毎日新聞社

昭和37年7月

1(日)●九州中心に集中豪雨(～9日。一〇二人死亡)。
2(月)●茨城県八代小の校舎が竜巻で倒壊。二人死亡。
3(火)●世界体操選手権開催(日本男子団体で初優勝)。
4(水)●公労委、国労の申し立てどおり国鉄の不当労働行為を認定。民間以外では初の救済命令。
5(木)●建設省、一日からの豪雨による公共土木施設の被害は二一億八三〇〇万円と発表。
6(金)●香川県長尾町でバスが川に転落。三人死亡。
7(土)●厚生省、禁断症状の麻薬中毒患者には精神衛生法を適用し、入院措置をとるよう通達。
8(日)●東邦大学医学部同窓会が、脳性小児麻痺患者の保護施設建設を決定し募金呼びかけ。
9(月)●東京・保谷町教委、小・中学校の全国一斉学力調査(11・12日)を実施しないことを決定。
10(火)●佐世保重工で世界最大タンカー「日章丸」進水。
11(水)●国産旅客機YS11が完成(8月30日初飛行)。
●創価学会、参院院内交渉団体「公明会」を結成。
12(木)●泰緬鉄道建設に従事したマレー人一万一千余人結成の「死の鉄道協会」、日本に補償要求。
13(金)●調達庁、八丈島の米軍無線局建設中止を通知。
14(土)●全国即席ラーメン協会、特許めぐり内紛分裂。
15(日)●仏潜水艇「アルキメデス号」、ウルップ島南方の日本海溝で九五〇〇㍍の潜水に成功。
16(月)●神奈川県立フラワーセンターが大船に開園。
17(火)●富山県立福野高校で猟銃男が女子生徒を射殺。
18(水)●池田改造内閣発足。蔵相に田中角栄。佐藤栄作・三木武夫らは閣外に去る。
19(木)●釧路市で料金未払いのため送電停止の母子家庭でろうそくの火から出火。幼児三人が焼死。
20(金)●河野建設相、大都市のガス・電気・水道・電話などの地下共同溝建設案の立案を指示。
21(土)●文楽の二六人が初の海外公演のため渡米。
22(日)●プロパンガス消費量が急増、都市ガス需要家を超える、と新聞に。
23(月)●都、全国初の生鮮食品の標準小売店制度実施。
24(火)●日鉱労連、八鉱山閉山反対スト。
25(水)●運輸省技術研究所、自動車用安全ベルトの実験を行う。警察庁などが法制化を検討。
26(木)●国民年金審、母子福祉年金充実などを答申。
27(金)●江田三郎社会党書記長、江田ビジョンを提示。
28(土)●ライオン歯磨、整髪料「バイタリス」を発売。
29(日)●植木等主演の「ニッポン無責任時代」封切。
30(月)●公取委、過大懸賞つき販売の禁止を告示。
31(火)●厚生省、コレラ防止に台湾バナナを輸入禁止。

証言・あの日この日
大島みち子(20)

9月30日(日)〈バンザイ、バンザイ、とうとう74勝になっちゃった。もう優勝は決定的なものとなりました。大洋に2連敗した時は、ああまた今年もダメと悲観的になりましたが、タイガース・ナインの執念深さがとうとうここまで押し上げてきました。今頃、マコは鼻高々でしょう〉(大島みち子・河野実『愛と死をみつめて』)

この年、阪神タイガースは15年ぶりのセリーグ優勝を決める。それを喜ぶ一人の女子学生がいた。同志社大学に入学したこの年の夏、彼女は、高校時代にわずらった軟骨肉腫が再発、大阪大学附属病院に入院治療中だった。病の重さを知っていた彼女の心のよりどころは、東京に住む恋人マコとの文通だった。マコが大の阪神ファンだから、彼女の応援にも力が入る。それから1年たらず、昭和38年8月7日、彼女はこの世を去る。　(坪内祐三)

大和書房提供

▲「ベルリンの壁」から死の脱出(8月17日)東側に住む18歳の青年が東独人民警察に銃撃され死亡。設置1年で約40人が犠牲に。写真は死者への花束の前で祈る市民。

◀ゴルフ・ブーム加速(8月22日)レジャー志向の高まりを背景に、社用族・会社重役らが、ゴルフ人口1000万と言われる人気を支えた。写真は埼玉県川越市。ゴルフ場標示板の多さに驚かされる。

朝日新聞社

朝日新聞社

◀原水禁大会、大荒れ(8月6日)核実験全面反対の社会党系グループが、ソ連の核実験は別とする共産党系グループに抗議して退場。会場の東京・台東体育館周辺では全学連が激しいデモを行った。

▼作新学院、春夏連覇(8月19日)夏の高校野球決勝戦で久留米商に1対0で完封勝ち。春夏連続優勝は不可能というジンクスを2度目の出場であっさり破った。エース加藤は5試合に連投。

朝日新聞社

読売新聞社

▲東本願寺金沢別院が炎上(7月24日)事務所付近から出火、折からの乾燥続きでたちまち本堂、庫裏、広間、納骨堂、付属幼稚園などに燃え広がった。この火事で消火にあたった24人が負傷。

昭和37年8月

1(水)●東北急行バス、日本最長の東京—山形線開業。
2(木)●消団連、生協の育成強化などを経企庁に要望。
3(金)●寿屋(現・サントリー)、ウイスキーをアメリカへ初めて輸出。
●東京ニュース通信社、「週刊TVガイド」創刊。表紙は元NHKアナウンサーの高橋圭三。
4(土)●東京で観測史上三番目の三七・六度を記録。
5(日)●能代市での全国花火競技大会で、仕掛け花火が客席に飛びこみ三十余人が火傷を負う。
●マリリン・モンロー、謎の死をとげる。
6(月)●国際学連大会出席の全学連代表三人、モスクワでソ連核実験反対デモを行い逮捕される。
7(火)●富士車輌と韓国電力、市街電車八〇両と鉄鉱石(九億円相当)のバーター貿易契約に調印。
8(水)●姫路城天守閣に雌雄一対の鯱が設置される。
9(木)●大・小企業の賃金格差六割台に縮むと労働省。
10(金)●大阪地裁、転勤での夫婦別居不当の訴え棄却。
11(土)●池田首相、インドネシア外相との会談で、賠償引き当てで二一三五万㌦の借款を約束。
12(日)●堀江謙一、小型ヨットでの太平洋横断に成功。
13(月)●沖縄高校、夏の甲子園に沖縄から初出場。
14(火)●明石海峡で客船と自衛艦が衝突。一一人負傷。
15(水)●鎌倉・逗子の海岸に大量の電気クラゲが漂着。八百人余が刺され、一人重傷。
16(木)●両足のない人三人が運転するノークラッチ日本一周車、二八日間で四一都府県を完走。
17(金)●滋賀県伊吹山観光ホテルがガス爆発で全焼。
18(土)●国立劇場設計案の一般公募要項が発表される。
19(日)●作新学院、史上初の甲子園の春夏連覇を達成。
20(月)●「安易な外国技術依存は問題」と通産省報告。
21(火)●日本対ガン協会の胃癌検診車「ひまわり号」による、初の街頭検診が郵政省で行われる。
22(水)●社会保障制度審、社会保険より低所得層の福祉を重視する方策を答申。
23(木)●八幡製鐵、米銀行と二六〇〇万㌦の借款契約。
24(金)●三宅島の雄山が二二年ぶり大噴火。四戸焼失。
25(土)●電電公社、第三次拡充五ヵ年計画を提示。
26(日)●入野義朗「綾の鼓」が、ザルツブルクの「テレビのための音楽国際会議」でオペラ賞一位に。
27(月)●ガイド試験合格発表。五輪控え競争率一二倍。
28(火)●総評大会、社会党単独支持を採決で決め閉会。
29(水)●厚生省、食中毒源の鯨ベーコンの回収を指示。
30(木)●千鳥ケ淵で初のソ連抑留死没者の追悼式挙行。
31(金)●書籍協会などが著作権使用者団体協議会結成。

▲三宅島・雄山噴火で集団疎開（9月1日）8月24日の噴火後、新火口の出現や地震が頻発したため、小・中学生1879人が千葉県館山市へ避難。写真は海上自衛隊の輸送艦に収容される子どもたち。

朝日新聞社

▼新丹那トンネル貫通（9月20日）東海道新幹線最大の難関と言われ、着工以来3年間をついやした。1年後には北陸、清水に次ぐ7905メートルの大トンネルが完成する。写真は貫通を喜ぶ関係者。

毎日新聞社

▲"迷路"東京に新標識（9月7日）2年後のオリンピックを前にして、主要道路にその通称を表示した道路標識が立てられた。写真は晴海通りと外堀通りが交差する銀座数寄屋橋での取り付け工事。

共同通信社

◀赤潮でハマチ全滅（9月8日）瀬戸内海に発生した赤潮で、香川県志度町にある養魚場の養殖ハマチ17万尾が窒息死した。被害金額は8000万円にのぼるという。写真はハマチの死骸で埋まった養魚場。

読売新聞社

▲東洋一の若戸大橋開通（9月26日）洞海湾にへだてられていた若松市と戸畑市（ともに、現・北九州市）を結ぶ全長2068メートルの吊り橋で、総工費は51億円。東京タワー5つ分の鋼材が使われた。

朝日新聞社

昭和37年9月

1（土）●京都市・妙心寺の重文の鐘楼が火災で全焼。
2（日）●東京で豪雨。江東区などで一万余戸が浸水。
3（月）●入院患者用の血液を運搬中の自衛隊機が、名瀬市で血液投下寸前に墜落。一三人死亡。
4（火）●立体交差化する踏切道一三三ヵ所を指定。
5（水）●プロ野球の金田正一、三五〇九奪三振を記録。
6（木）●警察庁、ニセ千円札の届け出に一枚三〇〇〇円以上の報奨制を決め、ニセ札の特徴を発表。
7（金）●警視庁、全国初の愚連隊防止条例案を決定。
8（土）●都制調査会、区長公選・二三区再編など答申。
9（日）●車庫規制強化で自動車販売減少、と新聞に。
10（月）●米医学書一〇万冊の海賊版発行者四人、逮捕。
11（火）●外務省が人口対策でなく個人の自由を尊重する海外移住基本法案を提出、と新聞に。
12（水）●原子力研究所の国産一号炉JRR3が臨界に。
●ヤコペッティ監督「世界残酷物語」封切。
13（木）●山中湖畔の山荘から出火、一〇人死亡（秋田山荘事件。死因はガス中毒と判明）。
14（金）●東京で日英交渉百年記念講演会が開催される。
15（土）●石炭鉱業合理化事業団、初の退職金融資決定。
16（日）●仲代達矢主演・小林正樹監督「切腹」封切。
17（月）●名古屋駅発車後の急行に六人組の強盗。三時間余り乗客に乱暴し、金品二万円余を強奪。
18（火）●米下院歳出委員会、沖縄援助費増額を否決。
19（水）●自民党の松村謙三、北京で周恩来首相と会談し、積み上げ方式での日中関係正常化で合意。
20（木）●東海道新幹線新丹那トンネル、貫通。
21（金）●自治省、慢性的な被災地から集団移住する長野県下伊那郡四村に初の国庫補助を決定。
22（土）●厚生省、台湾コレラ終息で通常検疫に復帰。
23（日）●両津高校教諭が国際保護鳥トキ六羽を確認。
24（月）●夢の島でごみが自然発火。一万平方㍍を焼く。
25（火）●柳田国男の蔵書二万冊が成城大学に贈られる。
26（水）●若松市—戸畑市間に若戸大橋開通。
27（木）●厚生省、交通事故での救命のため脳外科医を配置した救急病院を八都市に新設と決定。
28（金）●全日空と松下電器が東京発大阪行きの定期便機内で初のテレビ受像実験に成功。
29（土）●富士写真光機、普通紙が利用できる初の国産電子複写機（ゼロックス914）を開発。
●松谷みよ子『龍の子太郎』、日本の作品では初めて国際アンデルセン賞優良賞を受賞。
30（日）●南方同胞援護会会議（10月1日）出席の沖縄代表、本土渡航を米民政府が許可せず不参加に。

▶19歳、ファイティング原田、世界を制す（10月10日）世界フライ級タイトルマッチで、ポーン・キングピッチを11ラウンドKOで破り、白井義男以来約8年ぶりにタイトルを日本に奪回した。

共同通信社

◀阪神、宿願のセリーグ優勝（10月3日）甲子園球場での広島戦で小山投手が力投。6対0で広島を破り、75勝55敗3分けで15年ぶりに優勝した。写真は胴上げされる藤本監督。

朝日新聞社

▶長引く繊維不況（10月8日）綿製品の輸出枠をめぐる日米交渉が不調に終わり、繊維業界は綿、毛などの紡績機200万錘の廃棄を検討した。写真は操業短縮に追いこまれた中京地区の紡績工場。

朝日新聞社

◀初の一日内閣（10月6日）広く国民の声を聞き、国政に反映しようとの試み。池田首相ほか11閣僚が岡山県議会議事堂に出向き、中国地方の5県から選ばれた15人の代表と質疑が行われた。

共同通信社

◀ニセ千円札横行（10月6日）発見者には3000円の報奨金を出すことになったが、事件は迷宮入りとなり、38年11月には新千円札が発行された。写真は高崎駅前のニセ札PRの看板。

読売新聞社

▶東映、初の日本一（10月21日）甲子園球場で行われた日本シリーズ第7戦、西園寺の決勝ホーマーで阪神を2対1で下し、4勝2敗1分けで初優勝した。写真は喜びの大川博東映社長。

朝日新聞社

昭和37年10月

1（月）●米で日米知識人会議開催。松本重治らが参加。
2（火）●東京二三区の「緑のおばさん」一五〇〇人、身分保証を訴え東京駅などで署名活動を行う。
3（水）●プロ野球の阪神、一五年ぶりセリーグ優勝。
4（木）●北九州の五市（門司・小倉・若松・八幡・戸畑）合併を各市議会が決議（38年、北九州市誕生）。
●日航の南まわりロンドン行き一番機が出発。
5（金）●閣議、全国総合開発計画を決定。
6（土）●炭労、雇用安定を要求して全国で一斉スト。
7（日）●中尊寺金色堂、虫食い被害の解体修理を開始。
8（月）●大洋漁業所属の「日新丸」船団、乗組員の無期限スト突入で南極捕鯨への出航を延期。
9（火）●警察庁、一五都府県で警官五〇〇〇人を動員し、暴力団拠点三七九ヵ所を捜索。
10（水）●ファイティング原田、世界フライ級王座に。
11（木）●富山県と富山市・婦中町・上市町・八尾町の保健所、イタイイタイ病対策連絡協議会結成。
●東京都、「迷惑防止条例」を公布。
12（金）●鹿沼市議会、市長選投票に記号式導入と決定。
13（土）●モスクワで、世界バレーボール選手権大会開催。日本女子（日紡貝塚チーム）が完全優勝。
14（日）●米、キューバでのミサイル基地建設を確認。
15（月）●中教審、大学の管理運営策などを文相に答申。
16（火）●東京地裁、『悪徳の栄え』猥褻裁判で無罪判決。
17（水）●北海道乙部村の国道で土砂崩れが発生し、バスが海へ転落。一三人が死亡。
18（木）●日産、国産初の大型乗用車「ニッサン・セドリック・スペシャル」（二八二五cc）を発表。
19（金）●新潟—東京間の天然ガス・パイプライン全通。
20（土）●バレリーナの安田由貴子、日本人として戦後初めて韓国の舞台（ソウル市民会館）に出演。
21（日）●第一七回国体開会。沖縄が初めて正式参加。
22（月）●米、キューバ海上封鎖を声明（キューバ危機）。
23（火）●国大協、老朽校舎の緊急整備計画を提唱。
24（水）●北朝鮮に抑留されていた貨物船「金剛丸」帰国。
25（木）●講談本ブーム去り貸本屋も減少傾向と新聞に。
26（金）●首相の諮問機関「国づくり」懇談会が初会合。
27（土）●警視庁、要人警護のため「指定警護員」を設置。
28（日）●ソ連、キューバからの攻撃的兵器撤去を通告。
29（月）●家電メーカー各社、新型冷蔵庫を発表。主力商品のテレビから冷蔵庫への切り替えめざす。
30（火）●最高裁、四九年間無実を訴えてきた「巌窟王」吉田石松の再審請求を認める。
31（水）●日中友好協会、中国残留者四一二人を発表。

▲小津安二郎、芸術院会員に（11月27日）「東京物語」「秋刀魚の味」などの作品を発表してきた小津は、映画界初の快挙に「今までどおり自分のものに磨きをかけます」と喜びを語った。

朝日新聞社

共同通信社

▲市場拡大へ、見本市船「さくら丸」出航（11月12日）中近東、アフリカなど12ヵ国へ向け、東京・晴海埠頭を出航した。船内には貴賓室・レセプションルームも完備され、国内700社出品の自動車、電気機器など2万点を展示。

朝日新聞社

◀「江田ビジョン」敗れる（11月27日）第22回社会党大会は、新しい社会主義の方向性を示した「江田ビジョン」批判を決議した。写真は江田三郎（左）と、江田に代わって書記長に選出された成田知巳（右端）。

▼タンカー同士が衝突炎上（11月18日）横浜港の京浜運河で、「第一宗像丸」（手前）とノルウェーの「サラルド・ブロビグ号」が衝突。小型船2隻が巻き添えとなり、「第一宗像丸」の全乗員36人を含む41人が死亡。

読売新聞社

毎日新聞社

▶美空ひばり・小林旭結婚（11月5日）東京・日比谷の日活国際ホテルで挙式。媒酌人は堀久作日活社長、披露宴の招待客は450人にのぼった。結婚生活は長くは続かず、昭和39年6月に離婚。

▼日中貿易、準政府間協定で本格化（11月9日）廖承志と高碕達之助が「日中総合貿易に関する覚書」に調印した。この覚書に基づく両国の貿易は、二人の頭文字からLT貿易と呼ばれた。

新華社／中国通信

◀▲「マリナー2号」、金星を観測（12月14日）アメリカの惑星探査機「マリナー2号」が、金星から約3万5000キロの最接近点を通過した。写真左は、同機が送ってきたデータを手に発表するジェット推進研究所のバークス部長、上は「マリナー2号」。

◀銚子大橋開通（12月10日）利根川河口が1450メートルの道路橋で結ばれた。両岸の銚子市と波崎町はともに漁業の町で、日頃から関係が深く、待望の架橋。両岸で数万人がこの日を祝った。

毎日新聞社

▶木村庄之助、最後の軍配（11月25日）みずから主張した行司定年制の第1号として、九州場所千秋楽を最後に土俵を去った。「足さばき」や「死に体」の判定の正確さと速さで名人と言われた。

朝日新聞社

▲京大薬学部で火災、貴重な資料失う（12月29日）深夜3時頃出火、消防車40台近くが出動したが、本館延べ約1370平方メートルを全焼した。入手困難なものを含む蔵書約1万点、入手不可能な標本など貴重な資料が焼失。

朝日新聞社

朝日新聞社

▲最大級の太陽炉（12月14日）東北大科学計測研で完成・公開された。約1メートル四方の鏡238枚で、太陽光を口径10メートルの放物面鏡に集めるヘリオスタット式。融点3380度のタングステンを溶かすことができ、規模では世界第2位だが性能は世界一。写真は放物面鏡。

昭和37年11月

1（木）●防衛庁の外局、防衛施設庁発足。調達庁廃止。
2（金）●ライシャワー駐日米大使、沖縄援助に関する日米協議委員会設置を提案。大平外相、同意。
3（土）●伊豆沖のヨットレースで、荒天のため早大・慶大のヨット二隻が遭難。一一人が死亡。
●東京・新宿の小田急百貨店に、ラジオのニッポン放送が「サテライト・スタジオ」を開設。
4（日）●日本酒メーカー、甘口酒人気に困惑と新聞に。
5（月）●美空ひばりと小林旭の結婚式が行われる。
6（火）●日本、国連総会で人種差別政策についての南アフリカ共和国制裁決議案に反対投票。
7（水）●TBS系で、「コンバット」放映開始。
8（木）●東都大学野球で日大に初のバトンガール登場。
9（金）●北京で、「日中総合貿易に関する覚書」調印。
10（土）●日本ME学会創立。電子工学の応用が目的。
11（日）●都内のタクシーに、「当車は乗車拒否しません」のステッカーが登場、と新聞に。
12（月）●民間は操縦士不足で自衛官引き抜きと新聞に。
13（火）●池田首相、「ソ連が択捉・国後を返還しない限り、日ソ平和条約は結ばない」と表明。
14（水）●青森県で踏切事故。トラック荷台の九人死亡。
15（木）●ビキニ島沖で漁船「元洋丸」が、カジキマグロに船底に穴をあけられ浸水、SOSを発信。
16（金）●初の国民休暇村、大山鏡ケ成国民休暇村開業。
17（土）●警察庁、絵図方式の新交通標識試作品を発表。
18（日）●東京―名古屋間の市外電話がダイヤル式に。
19（月）●愛知県で訓練中の全日空機が墜落。四人死亡。
20（火）●米、爆撃機撤去通告受けキューバ封鎖を解除。
21（水）●東京・晴海で初の国産電子計算機ショー開催。
22（木）●中小企業庁と公取委、各種団体に対し下請け代金の支払いが遅延しないよう要望。
23（金）●東京・山谷で食堂の客と従業員の喧嘩をきっかけに騒動、警官隊一三〇〇人が出動。
24（土）●三六年度『消防白書』。火災は四万七一〇六件。
25（日）●東京・有楽町のデパート屋上から青年が飛び降り自殺。通行人一人が巻き添えで死亡。
26（月）●公定歩合一厘下げ決定。金融引締め全面解除。
27（火）●警察庁、海上封鎖など麻薬追放の緊急対策。
28（水）●最高裁、関税法の第三者所有物没収規定は違憲と判決。現行法に対する初の違憲判示。
29（木）●東京・世田谷区の電話ボックスで火薬が爆発。草加次郎と名乗る人物の五件目の犯行。
30（金）●文部省、第一回中学校教育課程研究発表大会を開催。日教組に対抗する初の「文部教研」。

昭和37年12月

1（土）●水稲用コンバインの試作機が登場、と新聞に。
2（日）●伊共産党書記長、党大会で中国共産党を批判。
3（月）●京都市交響楽団・群馬交響楽団・札幌交響楽団が高崎市で第一回交歓演奏会を開催。
4（火）●プロ野球、使用球を本来の馬皮に戻すと決定。
5（水）●住居表示審議会、新街区表示板などを公開。
6（木）●レコード大賞に「いつでも夢を」決定。各賞に「小さい秋みつけた」「遠くへ行きたい」。
7（金）●橿原考古学研究所、奈良県明日香村の鑵子塚古墳発掘作業を終了。玄室は日本最大。
8（土）●京都で大学管理反対のデモが機動隊と衝突。
9（日）●歳末の学生アルバイトは求人難、学徒援護会では募集一五〇〇人に応募四五〇人と新聞に。
10（月）●東京にロンドン並みの高汚染スモッグが発生。
11（火）●北海道恵庭町の陸上自衛隊島松演習場で、牧場経営者が演習用の通信線を切断（恵庭事件）。
12（水）●フルシチョフ・ソ連首相、演説で「平和共存」を強調（16日、ケネディ米大統領も同調）。
13（木）●海上保安庁、麻薬密輸入摘発の実施要綱発表。
14（金）●建設相、官庁集団移転候補地二ヵ所を視察。
15（土）●警視庁、交通機動警ら隊高速道路分駐所設置。
●アメリカ映画「史上最大の作戦」封切。
16（日）●石油ストーブが爆発的な売れ行き、と新聞に。
17（月）●東京国際空港騒音対策委員会、深夜のジェット機の発着禁止を求める決議を採択。
18（火）●東大宇宙空間観測所、観測用ロケット、カッパー8型一一号機の打ち上げに成功。
19（水）●首都高速一号線京橋―芝浦間（四・五キロ）開通。
20（木）●沖縄嘉手納基地付近に米機墜落。一二人死亡。
21（金）●東京地裁、異教徒埋葬を拒否できないとする厚生省通達に対する取り消し請求訴訟を却下。
22（土）●名古屋高裁、安楽死を認めうる六要件を判示。
23（日）●北ボルネオの大洋漁業基地を海賊が襲撃。
24（月）●東京銀行協会、月賦販売関係の不渡り急増について都内の月賦販売業者五〇〇社に警告。
25（火）●灯油需要急増のため五万キロリットルの緊急輸入決定。
26（水）●全日本交通安全協会、初の交通事故被害者実態調査を発表。四二パーセントが後遺症を訴える。
27（木）●箱根峠―湖尻間の芦ノ湖スカイラインが開通。
28（金）●プロボクシング日本フライ級選手権で、斎藤清作（後のタレント・たこ八郎）が王座に。
29（土）●京大薬学部で火災。本館一三七〇平方メートル全焼。
30（日）●全日空、藤田航空を吸収。使用機六〇機に。
31（月）●一日にかけ欧米に猛寒波。約四〇〇〇人が死亡。

俄楽多市

▲「少年サンデー」で、この年4月15日号から連載が始まった赤塚不二夫のギャグマンガ「おそ松くん」。

流行語
無責任時代のシンボル

「わかっちゃいるけどやめられない」。昭和三七年の流行語の旗手は、なんといっても青島幸男とクレイジー・キャッツの植木等。数多くの流行語が青島の作詞、植木の歌から生まれた。第一弾は「スーダラ節」（前年一一月に発売）で、その中の「わかっちゃいるけどやめられない」という文句が高度成長のゆとりの中で、つい酒や女、バクチにひかれる男たちの心情にマッチ。さらにこの年発売の歌からは「C調」「ハイそれまでヨ」「サラリーマンは気楽な稼業ときたもんだ」といった表現がサラリーマンにもてはやされた。もっとも彼らが送り出す流行語は、一種の逆説であったが、社会では無責任、いいかげんに生きることの弁解や口実として使われることも多かった。

「ビジョン」。七月に行われた社会党の会議で、江田三郎書記長が高い生活水準と、徹底した社会保障などを中心とした新しい方針を発表、それがマスコミで〝江田ビジョン〟と報じられたところから、未来への夢がビジョンと呼ばれるようになった。ただし皮肉なことに、この頃から社会党の硬直化も目立ち、ビジョンなき政党と批判されるきっかけともなった。

企業
楽器メーカーが社内恋愛手当

〔長野発〕社内恋愛はお家のご法度という会社の多い中、長野県伊那市に社内恋愛のカップルに〝恋愛手当〟を出す会社が登場した。同市の響盟舎楽器製作所がそれで、職場で恋愛し、結婚の見通しのついた二人が社長に申し出れば、結婚まで毎月一〇〇〇円の手当が出る。さらに結婚式の披露宴には製品の即売会をやり、売り上げ金を新婚夫婦に贈って新婚旅行の費用にするという。

社長の北原世界幸氏はボクシングで国体に出たスポーツマン。夫人も元国体選手で、もちろん恋愛結婚。二人の経験からこのアイディアを実行に移したという。

（「週刊文春」四月九日号）

テレビ
〝寅さん〟は勉強家 永六輔のスター交友録

テレビ作家の永六輔が、人気俳優の意外な素顔を公開した。

〔黒柳徹子〕ローランサンの絵と空飛ぶ円盤が大好きというファニィな女の子だ。宇宙人に会うのだといってNHKの屋上で夜をあかしたりする。

〔渥美清〕若い時に行商までして苦労、おまけに病気をして、肋骨を三本切り取ったりした時の話を聞くと、彼のコメディアンとしての成功がわかる。忙しさにめげず勉強していることでは若手随一。

〔加山雄三〕京浜国道をドライブしていたら、動いているのが不思議なくらいのオンボロ車に出会った。バンパーははずれかかり、ヘッドライトはダラリ、車体は凹凸で、ドアも閉まりきっていない。運転しているのが加山クンだ。僕は窓を開けて声をかけた。

「いい車だね！」

彼は片手をあげて、いい気持ちそうに大笑いをした。その途端、グシャッと奇妙な音をたてて彼の車はエンコしてしまった。

〔ジェリー藤尾〕一二月一四日、義士の討ち入りの日にはかならず高輪の泉岳寺に墓参りに行くという妙な男。

（「若い女性」三月号）

▲八月二四日、河内音頭発祥の地、八尾市の常光寺境内で盆踊り大会が催され、正調河内音頭が披露された。

朝日新聞社

データ
パリ、ロンドンは四〇万円 世界の都市への飛行機代

●ホノルル　一九万八〇〇〇円（七時間）
●サンフランシスコ　二五万二〇〇〇円（一一時間三〇分）
●ニューヨーク　三三万七三五〇円（二三時間四五分）
●パリ、ロンドン（北まわり）四〇万五二五〇円（パリ一七時間、ロンドン一八時間）
●香港　七万三三五〇円（四時間）

（「平凡」三月号）

CM100年

▼コカ・コーラは、この年からテレビCMを大量に投入する。

テレビCF
「スカッとさわやかコカ・コーラ」（日本コカ・コーラ）

三面記事
西南戦争からまだ続く裁判

〔串間発〕「西南戦争で勝った官軍が、薩摩の民有地まで片っ端から取り上げたのはメチャクチャだ。取り上げた土地を返して」と、宮崎県串間市の農民一九六人が東京地裁に訴えた。

訴えによると、明治一〇年の西南戦争後、政府の〝占領政策〟は厳しく、県有地はもちろん民有地も次々に取られた。一三年、農民の半数が「土地を返して」と旧行政裁判所に訴えたが、「訴えたのは半分だから土地も半分返す」という判決で山林四五平方キロのうち二二平方キロが返された。その後、残りの農民が訴えても、政府は「返す必要なし」の一点ばり。これではらちがあかないと訴えたもの。

原告のほとんどは〝三代目〟だが、「六〇年にわたる占領政策の実態を暴く」とはりきっている。

（「産経新聞」九月二日）

窮余の一策 女泥棒のストリップ

〔四日市発〕三重県四日市市にある工場の独身寮に、花模様のワンピースを着た若い女がしのびこんだ。独身寮のため、昼間は管理人だけしかいないから、まるっきりドロボウ向き。

ところが若い女がしのびこんだ時には事情が違っていた。病気で魚津栄一さん（二五）が早退してきたのである。窮余の一策、若い女は下着まで脱ぎ捨てて一糸まとわぬ姿になって踊り出し、魚津さんに見逃してくれるよう哀願した。あまりのことに魚津さんは口もきけない。若い女はスキを見て衣服を抱えて逃げ出したが、あわてていたため逃走経路をあやまって水風呂に飛びこんでしまった。ブルブルふるえているところを駆けつけたお巡りさんの手で御用。

（「週刊文春」一二月三日号）

タクシーの中で求婚を断られ逆上

〔徳山発〕山口県徳山市の三和交通タクシーの女性運転手・山村富子さん（三八）は、車に乗った保険外交員・早川善久（五六）に車内で首をしめられ、おまけにナイフで首を切られて殺されそうになったが、全治二〇日間の傷で助かった。徳山署の調べによると早川は三年前に妻と別れ、一人暮らし。たまたまタクシーに乗った時、山村さんを見て思いを寄せるようになり、よく山村さんの車に乗っては結婚してくれと哀願した。しかし口説き上手な保険外交員の口をもってしても、山村さんを承知させることはできない。

その日は、今日こそはと決心して山村さんの運転する車に乗り、何度断られてもひるまず、数時間も市内をグルグル走った。それでも山村さんの決心が動かないので無理心中を思いつき、山村さんを殺してから自分も死ぬつもりだったという。

（「南日本新聞」三月三一日）

共同通信社

▲大ヒット曲にあやかった「上を向いて歩こう」びな。

男と頭は使いよう 美容院の新商法

〔大阪発〕女性の〝残酷性〟をうまく利用した美容院が大阪であたっている。経営者のK女史（四二）が考えたもので、「たくましい肉体美の男性を求む」という新聞広告を出して応募者六八人のうち三人を雇い入れた。日給は昼食つきで一〇〇〇円、仕事は海水パンツ一枚になり、大きなうちわで女性客の背中をバッタバッタとあおぐというもの。「鏡の中に汗だくの男が映りますやろ、欲求不満の中年の奥さんなんか、胸がスーッとしてきますのや」ということで、大変な人気というから、男と頭は使いよう！

（「週刊新潮」八月二〇日号）

この年の初もの
神戸にアンプルだけの店 アンプル・ショップ誕生

●マイ香水　東京・新宿の香水研究所が「あなただけの香水をお作りします」という商売を始めた。
●ペット・パトロール　「旅行中、犬、猫の世話します」という商売で名古屋でスタート。
●ピンク映画　三月「肉体の市場」（小林悟監督）公開。製作費八〇〇万円、売り上げ一億円。

▲テレビの人気者「3匹の子豚」ブー・フー・ウーの絵皿。

はやり歌

いつでも夢を

星よりひそかに
雨よりやさしく
あの娘はいつも　歌ってる
声がきこえる　淋しい胸に
涙に濡れた　この胸に
言っているいる
お持ちなさいな
いつでも夢を　いつでも夢を
星よりひそかに　雨よりやさしく
あの娘はいつも　歌ってる

歩いて歩いて
悲しい夜更けも
あの娘の声は　流れくる
すすり泣いてる　この顔上げて
きいてる歌の　懐かしさ
言っているいる
お持ちなさいな
いつでも夢を　いつでも夢を
歩いて歩いて　悲しい夜更けも
あの娘の声は　流れくる

▲佐伯孝夫作詞、吉田正作曲。橋幸夫と吉永小百合の二大スターのデュエットで大ヒット。

遠くへ行きたい

知らない街を
歩いてみたい
どこか遠くへ　行きたい
知らない海を
眺めていたい
どこか遠くへ　行きたい
遠い街　遠い海
夢はるか　一人旅
愛する人と
めぐり逢いたい
どこか遠くへ　行きたい
愛し合い　信じ合い
いつの日か　幸せを
愛する人と
めぐり逢いたい
どこか遠くへ　行きたい

▲永六輔と中村八大のコンビによる曲を、ジェリー藤尾がしみじみ歌ってヒットした。

"五人のサムライ"が設計から試作までをリード
戦後初の国産旅客機「YS11」が翔んだ！

昭和三七年八月三〇日、国産初の双発中型旅客機「YS11」がテスト飛行のため名古屋空港（小牧）から大空に舞い上がった。敗戦によって辛酸をなめていた技術者たちが総力を結集し、日本人みずからの手で造り上げたその雄姿は、三五年後の今も世界の空を飛び続けている。

▲名古屋空港に隣接する新三菱重工の格納庫で組み立てられるYS11。戦前、戦後を通じ、日本ではこのクラスの旅客機を独自に開発した経験はなかった。 熊切圭介

大きなプロペラの風圧で機体がどんどん右に傾く

その日、テスト機が新三菱重工（現・三菱重工）の第三格納庫から引き出され、まっ白な胴体にブルーの横線を配したスマートな姿を現したのは、午前六時すぎのことであった。

最後の点検が終わると、近藤計三機長（四四）と長谷川栄三副操縦士（三九）が機内に乗りこんだ。

七時二一分、基本設計を統括した木村秀政日大教授（五八）、製造の指揮をとった日本航空機製造の太田稔企画部長のほか、NBCなど外国の通信社もまじえて約三〇〇人が見守る中、金属音を残しながら離陸し、朝靄の中に消えていった。

その後同機は、伊勢湾上空を約一時間にわたってテスト飛行し、その間高度約三〇〇〇メートル、速度を三七四キロに上げながら、上昇能力、旋回性などを点検。八時三〇分、名古屋空港に無事帰着した。

現在も三菱重工など航空機メーカーの顧問として活躍する長谷川栄三さんは七五歳になるが、その当時を振り返り、次のように語る。

「当時はあまりはっきり言えませんでしたが、よく生きておったと思いますよ。なにしろあの大きなプロペラの風圧で、機体がどんどん右に傾くのです。操縦桿がいうことをきかない。こんなものではどうしようもないということで、技術者たちと徹底的にやり合いました。その間約一〇ヵ月、テスト飛行を繰り返しながら、主翼や尾翼の角度、境界層剥離や振動など、技術的な課題を克服していったのです。安定した飛行ができた時は、もう感無量で天にも昇る思いでした」

「YS11」は全幅三二メートル、全長二六・三メートル、巡航速度四七〇キロ時、六〇人乗りの中型旅客機だった。エンジンにイギリスのロールス・ロイス・ダート10、三〇六〇馬力を採用したが、設計から試作まで、すべてが日本人の手で造られた純国産の旅客機であった。

当初はジェット機時代にプロペラ機とは時代錯誤との声も聞かれたが、一二〇〇メートルの滑走路で離着陸できること、短い距離を運航するのにいちばん経済的であることを特徴として掲げ、量産態勢に入っていった。

試作二号機が輸送した東京オリンピックの聖火

昭和三二年五月、敗戦による航空機産業の壊滅状態から脱するため「輸送機設計研究協会」が設立された。

参加したのは、新三菱重工、川崎航空機工業、日本飛行機、新明和工業、富士重工、昭和飛行機の六社と大学、研究所、航空輸送会社などであった。

基本設計は木村秀政、菊原静男、堀越二郎、土井武夫、太田稔の五人で構成される主任会議が担うことになった。

"五人のサムライ"と呼ばれた彼ら設計技師たちは、零戦や隼など、昭和一〇年代を中心に世界をリードする優れた飛行機を造り上げた人たちである。

▶12月18日、皇太子を迎えての完成披露式が羽田で行われた。 共同通信社

外から見たNIPPON

学者大使、E・O・ライシャワーの駐日時代「最大の成果」

――佐伯 修

この年、駐日大使として初めての正月を東京で迎えた、エドウィン・O・ライシャワー（五一）にとって、最初の大きなイベントは、二月四日から九日にかけての、ロバート・ケネディ司法長官の来日だった。

六日には、早稲田大学での、司法長官と学生とのディスカッションが予定されていたが、左派系学生による妨害が憂慮されていた。なにせ、「六〇年安保」からまだ二年たらずである。「米帝」の首脳が大学へ現れるとあっては、彼らの血も騒ごうというものである。

会場の大隈講堂には、三〇〇〇～四〇〇〇人もの学生が集まっていたが、案の定、左派系学生の野次と、それに対する右派系学生の罵声で、場内は騒然とした。

司法長官は、わざと、会場にいたいちばん威勢のよさそうな左派系学生を指名、ひとしきりアジ演説をさせてから、反論しようとしたら、マイクが切られてしまった。運よく携帯マイクが見つかり、司法長官の反論は「そのままみごとな演説になっていた」。次いで二人目の学生を指名する。

「だが、一瞬、私は急に不安になった。二番手の学生が右翼的な、あるいは親米的な意見の持ち主だったら困る。それではすべてが私たちの仕組んだ茶番劇のように思われかねない……。幸い、この学生も共産主義者で、それなりに非友好的な質問をぶつけてきた。ロバート・ケネディはこれに答えて、またしてもみごとな演説を返した」（入江昭監修『ライシャワー大使日記』）

かくて、この集まりの〝黒衣〟ライシャワーも、ほっと胸をなでおろす。「万が一の事態に備えて用意していたさまざまな手は、ともかく使わずにすんだ」。後に、彼は、この司法長官来日を、一九六一年から六六年までの駐日大使時代の「ハイライト」と呼び、早大訪問は、その「最大の成果」だったとしている。

ライシャワーは、一九一〇年、つまり明治四三年、東京に生まれた「BIJ」（ボーン・イン・ジャパン）である。その『自伝』の中で彼は、「私は日本を〝発見〟する必要がなかった」と断言し、豆腐屋の声、下駄の音、下肥の臭いなどを「身近なもの」としていとおしんでいる。長じて、ハーバード大学の大学院で東アジア研究の道に入り、日本および東洋の専門家となった。

そんな〝学者大使〟の彼が、任期中の一九六四年三月、大使館内で少年に刺され、九〇年に世を去るまで後遺症に苦しめられたのも、日本との皮肉な因縁であった。

▶実兄ロバートを日中戦争に巻きこまれて失う。

基本設計がまとまったのは二年後、昭和三四年のことだった。その時点で協会は解散。試作機を造るために、政府と民間各社の出資による日本航空機製造が、同年六月に発足し、前記の六社が人員や設備などで協力してYS11を造り上げたのである。

YSとは輸送機設計研究協会の「輸送」「設計」の頭文字による命名である。

東京オリンピックの年、昭和三九年には、全日空が試作二号機をチャーターして、日本航空がDC6型機でアテネから沖縄に運んだオリンピックの聖火を、鹿児島・宮崎・名古屋・札幌へと空輸した。これがYS11の初の民間使用となった。

定期路線の初就航は四〇年四月、日本国内航空（現・日本エアシステム）の東京―高知線での飛行で、この試作二号機が使用され、「聖火」号と命名された。

その後、フィリピンや航空王国アメリカへの輸出も成功、昭和四八年までに一八二機が生産され、海上自衛隊に引き渡されたのが最後となった。

この国産旅客機プロジェクトは、三六〇億円の赤字を出して幕を閉じた。そしてその後、資金力不足や強力な世界の航空機メーカーが存在するため、日本独自の輸送機開発は実現していない。

しかしYS11は、生産中止になったとはいえ、平成九年一月現在、国内で六四機、国外で三五機、合計で九九機が世界の空で現役として活躍している。

航空業界に詳しいジャーナリスト・前間孝則氏は、このYS11の歴史的な意義について、

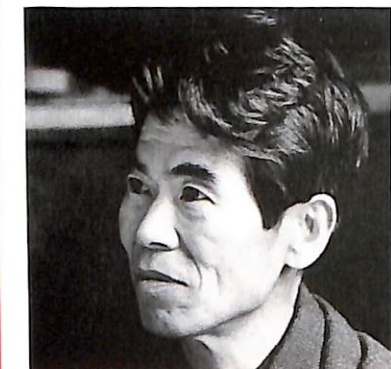
「戦前、欧米に勝るとも劣らない零戦などの戦闘機を造り上げたとの自負を持つ航空技術者にとって、敗戦そして戦後の『航空禁止』の日々は苦々しいものがあった。そんな彼らが、欝憤を晴らすかのように造り上げた戦後初の国産旅客機YS11は、さまざまなマスコミでさかんに取り上げられて、時代の寵児となった。この時から三五年がすぎ、現在、日本は『技術大国』と呼ばれるまでになった。だが、いまだにYS11クラスの民間機を自主開発できないでいる。そんな現実を振り返る時、日本人にとってこの飛行機は、昭和の時代の夢を乗せた記念すべきものだったと言えます」

と語っている。

▶昭和三九年九月、日本各地へ五輪の聖火を運んだ試作二号機。大歓迎を受けた。 全日本空輸提供

往きて還らぬ

▲7月18日 大河内伝次郎(64)
映画俳優。ニヒルな風貌と独特の語りで人気を集め、丹下左膳を当たり役として200本以上の時代劇に出演。

◀9月7日 吉川英治(70)
小説家。大正15年『鳴門秘帖』で大衆作家の地位を築き、その後『宮本武蔵』『新・平家物語』などの執筆を続けた。

▲10月28日 正宗白鳥(83)
自然主義作家の代表的な一人。昭和11年小林秀雄と思想と実生活について論争し話題に。代表作に『何処へ』など。

▲8月8日 柳田国男(87)
民俗学者。全国の山間辺地を訪ね歩き独自の「柳田民俗学」を確立した。『遠野物語』『海上の道』など著書多数。

▲11月23日 名取洋之助(52)
写真家。フォト・ジャーナリズムの先駆者で、戦前にはグラフ誌「NIPPON」、戦後は「岩波写真文庫」を創刊。

▲8月9日 ヘルマン・ヘッセ(85)
20世紀市民文学を代表するドイツの小説家。代表作に『車輪の下』『デミアン』など。1945年度ノーベル文学賞受賞。

▲4月11日 中谷宇吉郎(61)
物理学者で〝雪の結晶〟の研究の第一人者。名随筆家としても知られ『冬の華』『科学の方法』などの作品がある。

▲5月12日 秋田雨雀(79)
劇作家。プロレタリア演劇運動で活躍し、戦後は舞台芸術学院院長をつとめた。代表作『国境の夜』。童話も執筆。

▲7月6日 W・フォークナー(64)
小説『響きと怒り』などで陰惨な人間の本質を描き、現代文学に大きな影響を与えた。1949年度ノーベル文学賞受賞。

▼7月9日 ジョルジュ・バタイユ(64)
フランスの小説家。聖とエロスを追求した特異な小説で知られ、著書に『エロティシズム』『無神学大全』など。

▲1月7日 石井漠(75)
創作舞踊の先駆者で、大正末期にヨーロッパ各地を巡演後、石井漠舞踊研究所を開設。舞踊作品「人間釈迦」など。

▲3月26日 室生犀星(72)
詩人、小説家。大正7年処女詩集『愛の詩集』でデビュー。代表作に『性に眼覚める頃』『あにいもうと』など。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第14号 5月13日(火)発売 毎週火曜日発売 講談社 定価560円 本体533円

1965［昭和40年］

●特集
北爆、ダナン上陸 ついにアメリカがベトナム戦争に直接介入／「ジャルパック」大ヒット！ "海外旅行時代"が始まった／ソウルに非常戒厳令！ 反対運動激化の中で「日韓条約」調印／遊び心に市民権 初の深夜番組「11PM」スタート
●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する365日…伊豆大島で大火(1月11日)／山陽特殊製鋼、戦後最大の倒産(3月6日)／吉展ちゃんの遺体発見(7月5日)／朝永振一郎博士に日本人二人目のノーベル賞(10月21日)／シンザン、初の五冠達成(12月26日)
●人物クローズアップ
小田実と「ベ平連」の誕生
●決定的瞬間
米ソ、人類初の宇宙遊泳に成功
●美の出会い
明治人の"魂"を伝えたい 森鷗外、夏目漱石宅など「明治村」がオープン！
●女たちの肖像…都はるみ、紅白に最年少出場／**勝者・敗者**…ファイティング原田、二階級制覇／**証言・あの日この日**…田久保英夫、犬養道子／**20世紀博物館**…浜松市楽器博物館(静岡・浜松市)／**「現場」を歩く**…二六年間続いた「群発地震」と地下大本営跡／**外から見たNIPPON**…「蒙古の徳王」の対日感情
●ベストセラー…管理社会の"ノウハウ本"「おれについてこい！」／**スターと名場面**…「網走番外地」や「函館の女」など"北国モノ"ヒット／**モノ語り'65**…モーレツ社員のための"活力源"「オロナミンC」

日録20世紀専用バインダー

高級感あふれる特製バインダーを用意しました。「日録20世紀」全100巻を10冊ずつ年代順にバインダーにとじてそろえれば、「20世紀」ビジュアル百科のできあがり。10年ごとに分類するためのシールも添付。取りはずしは簡単で、整理にも便利、じょうぶな仕上がりです。あなたの書斎を飾るホーム・ライブラリーとして、永く保存してお楽しみください。バインダーは1部1300円(税別)。全国の書店でお求めください。

■既刊好評発売中

バックナンバーは、お近くの書店でお求めください。創刊号のみ282円(税別)です。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく、送料200円のご負担となります。なお、代金と送料は先にお送りください。申込先 講談社読者サービス係 電話03-5395-3676

創刊号(2月18日号)1959[昭和34年]　第2号(2月25日号)1964[昭和39年]　第3号(3月4日号)1945[昭和20年]　第4号(3月11日号)1970[昭和45年]　第5号(3月18日号)1963[昭和38年]　第6号(3月25日号)1958[昭和33年]

第7号(4月1日号)1972[昭和47年]　第8号(4月8日号)1980[昭和55年]　第9号(4月15日号)1976[昭和51年]　第10号(4月22日号)1989[平成元年]　第11号(4月29日号)1960[昭和35年]　第12号(5月6日号)1961[昭和36年]

■今後の刊行予定

第15号(6月3日号)1966[昭和41年]　第16号(6月10日号)1967[昭和42年]　第17号(6月17日号)1968[昭和43年]　第18号(6月24日号)1969[昭和44年]

▶第19号(7月1日号)1941[昭和16年]6月17日発売
真珠湾攻撃●ゾルゲ事件●李香蘭、日劇で歌謡ショー●独ソ戦開始
▶第20号(7月8日号)1942[昭和17年]6月24日発売
ミッドウェー海戦●朝鮮人強制連行●戦争映画隆盛●ユダヤ人虐殺
▶第21号(7月15日号)1943[昭和18年]7月1日発売
学徒出陣●戦時下のグルメ●戦火に葬られた動物●「伊8号」帰投す
▶第22号(7月22日号)1944[昭和19年]7月8日発売
学童疎開●神風特攻隊●戦時下の技術開発●独軍降伏、パリ解放
▶第23号(7月29日号)1946[昭和21年]7月15日発売
東京裁判開廷●南海道大地震の衝撃●戦後闇市と戦災孤児
▶第24号(8月5日号)1947[昭和22年]7月22日発売
日本国憲法施行●「日曜娯楽版」スタート●新宿で額縁ショー
▶第25号(8月12日号)1948[昭和23年]7月29日発売
美空ひばりデビュー●福井に大地震●朝鮮半島、38度線の悲劇

ミニ事典

1962年のキーワード

タコグラフ

自動車に取り付けて、刻々のスピードや停車時間など、車の走行状態を自動的に記録する装置。運転する人の勤務状況がわかるので、違法な運転や過重労働を監視することができ、交通事故防止に役立つ。警察庁は前年に試験運用、この年一月一日、全国警察本部を通じて、大型車への取り付けを指示した。

日本農林規格

農林水産物とその加工品の品質に関する統一規格。合格品にはJASマークが付される。一般に「ジャス」と呼ばれる。昭和二五年に公布された農産物資規格法に基づき、農林省が発表。この年三月三日にはハム・ソーセージについて、主原料の種類とその含有量で分類・格づけするジャスが発表された。

女子学生亡国論

▲「女子学生亡国論」を唱えて話題になった早大教授・暉峻康隆。

大学の文学部に占める女子学生の割合が急増、この頃は慶大・上智大四四パーセント、立大六四パーセント、青山学院大八六パーセント、学習院大八八パーセントにも達していた。この現象をとらえて、早大教授・暉峻康隆が「週刊新潮」三月五日号に「大学の文学部は女子学生に占領されて、今や花嫁学校化している」と記した。そのタイトルが「女子学生亡国論」。マスコミのかっこうの話題となった。

ATG

▲ATG配給の「尼僧ヨアンナ」。17世紀のポーランドが舞台。

芸術映画・実験映画を専門に輸入上映する目的で設立された組織。四月二〇日発足。日本アート・シアター・ギルドの略。東京・新宿をはじめ九つの上映館を持ち、第一回配給作品はポーランド映画「尼僧ヨアンナ」。後には、若手監督の育成を目的に自主映画の製作も行った。昭和六一年、役割を終えたとして、実質的な活動を止めた。

新産業都市建設促進法

大都市の人口・産業の過度の集中を防ぎ、地域格差の是正をはかるため、新たな産業開発の中心となる地域の建設を促進する法律。五月一〇日公布。全国で四四地区が指定を希望したが、結局、道央（北海道）、仙台湾、新潟、松本・諏訪など全国一五地区が指定を受け、財政特例措置を得て、港湾やコンビナートの建設用地として造成・整備された。新産業都市建設は経済の高度成長をうながしたが、公害を拡散する弊害も残した。

パラリンピック

国際身体障害者スポーツ大会のこと。正式名称は国際ストーク・マンデビル競技会。二年ごとに開催され、一九六〇年以降のオリンピック夏季大会開催年は、その直後、同じ会場を利用して開かれることになった。日本人選手はこの年七月二五日から二八日まで行われた第一〇回ロンドン大会に初めて参加した。

ナイキ

▲陸上自衛隊習志野駐屯地に配備されたナイキアジャックス。

地対空ミサイル。「ナイキアジャックス」の略。防衛庁は、前年七月に決定された二次防の目的である防空体制高度化実現のため、その導入をはかった。社会党などは、日本の核武装を招くと厳しく批判した。この年九月三日、アメリカから供与された九二発を横浜港米軍埠頭から陸揚げ。翌年一月、首都周辺四ヵ所に新編制のナイキ部隊を配備した。

凍結乾燥食品

マイナス四〇度程度で急速凍結させ、氷になった水分を瞬間的に蒸発させた食品。フリーズドライ食品とも言う。日本では昭和三二年に開発が始まり、三六年に味噌で実用化。成分の損壊が少なく、長期の保存に耐えるため、インスタント食品の製造に広く利用され、この年九月四日の新聞には、エビやカニの凍結乾燥食品が好評との記事が載った。

サリドマイド禍

西ドイツで開発された非バルビツール系睡眠剤サリドマイドの服用によって起こった、アザラシ症などの奇形児出産。日本では大日本製薬が昭和三三年から製造販売、後、一四社が追随した。昭和三六年一一月、西ドイツで妊娠初期の服用は危険との警告が出されたが、日本で販売の全面停止と製品回収が行われたのは、その一〇ヵ月後の三七年九月一三日だった。この製薬会社と国のずさんな対応で災禍が拡大、三〇九人の被害児を生んだ。

LT貿易

自民党・高碕達之助と中日友好協会の廖承志会長が、一一月九日、北京で「日中総合貿易に関する覚書」に調印。これに基づく貿易を二人の頭文字からLT貿易と言った。日中貿易は中断・再開を繰り返したが、昭和三五年、周恩来首相の対日貿易三条件の発表で商社主体の日中貿易が再開した。LT貿易は商社ではなくメーカー団体が直接交渉にあたったため、プラント輸出を可能にした。

セルフサービス

この年、スーパーマーケットなどで急増した販売形式。客自身が商品を選択し、みずからレジまで運ぶ。対面販売では当たり前だった販売員のサービスは期待できないが、手軽さと安さが新しい魅力となった。一二月二日の新聞には東京都内のデパートがスーパーマーケット対策で売り場にセルフサービスを導入との記事が載り、その隆盛を伝えた。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1962

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室＋渡邉裕一
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーシヨンハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ
鍵和田良輔 小松邦宏 張替政展 藤森雅弘 結城順一 吉田忠正
●写真協力
サム・ショー 熊切圭介 ローレンス・シラー 但馬一憲 富山治夫 平野美津子 堀江謙一 カール・マイダンス LIFE
渡部雄吉
朝日新聞社 沖縄タイムス オリオン・プレス 共同通信社 G.I.P.Tokyo 新華社 大和書房 中国通信 日刊スポーツ PPS
フジテレビ 報知新聞社 毎日新聞社 読売新聞社 WWP
キングレコード 松竹 新日本製鐵 全日本空輸 東宝 20TH・CENTURY・FOX 日本ビクター プラド美術館 渡辺音楽出版

週刊YEARBOOK 日録20世紀 1962
●植木等「無責任男」ブーム 5月13・20日号
第1巻第13号 通巻13号 平成9年5月13・20日発行(毎週火曜日発行)
編集人 近藤達士 発行人 丸本進一 発行所 株式会社 講談社
郵便番号112-01 東京都文京区音羽2-12-21 (編集)03-3944-1295 (販売)03-5395-3604

定価560円 本体533円
雑誌 23703 5/20 T1123703050567
Ⓛ 2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社